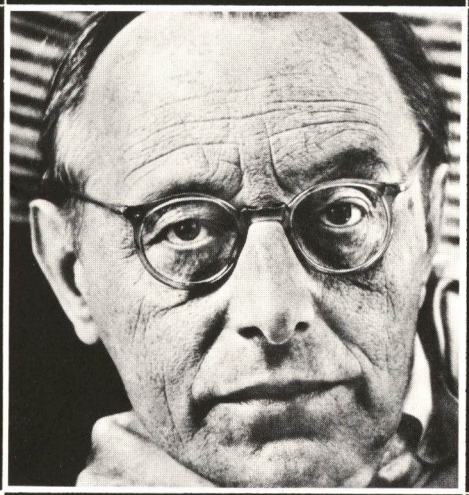
カルミナ ブラーナ

10周年記念特別演奏会

合唱団 鯨





「アフリカ土人の踊りのほうが，賢明に考案された新古典派的交響楽よりずっと純粋であり，ずっと表現の力を持つ」

カール・オルフ

プログラム

'77年11月30日(水)PM7:00　日比谷公会堂

カトゥーリ カルミナ　CATULLI CARMINA

プレリュード　PRAELUSIO

アフロディーテの勝利　TRIONFO DI AFRODITE

ヒュメナイオスの讃歌　INNO ALL 'IMENEO

ヒュメナイオスへの祈り　INVOCAZIONE DELL 'IMENEO

*　　*　　*

カルミナ ブラーナ　CARMINA BURANA

運の女神 この世の支配者なる　FORTUNA IMPERATRIX MUNDI

I 春のはじめに　PRIMO VERE

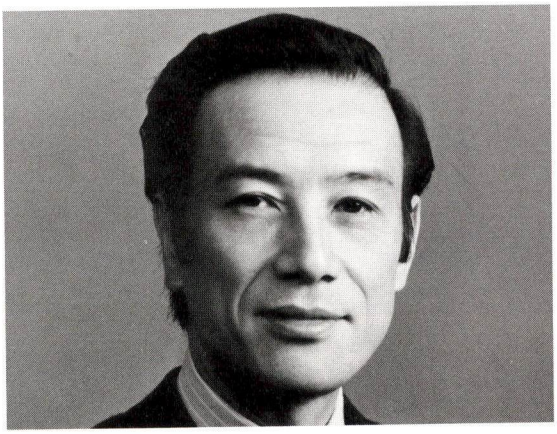
草の上で　UF DEM ANGER

II 酒場で　IN TABERNA

III 愛のいざない　COUR D'AMOURS

ブランツィフロールとヘレナ　BLANZIFLOR ET HELENA

運の女神 この世の支配者なる　FORTUNA IMPERATRIX MUNDI



指揮　芥川也寸志

1925年東京に生まれる。1949年東京音楽学校（現東京芸術大学）研究科卒業。主な作品「交響管弦楽のための音楽」「弦楽のための三楽章」「エローラ交響曲」オペラ「ヒロシマのオルフェ」「チェロとオーケストラのためのコンチェルト・オスティナート」「オーケストラのためのラプソディ」ほか。主な著書「音楽の基礎」「音楽の遊園地」「音楽を愛する人のために」ほか。

本来の作曲活動以外でも多彩な活躍をしているが，とりわけアマチュアの音楽活動の可能性を追求し，その振興・助成に力を注いでいる。新交響楽団創立以来の常任指揮者であり，合唱団鯨の生みの親でもある。1976年新交響楽団とともに第8回鳥井音楽賞を受賞，プロをもしのぐ感動的な演奏がアマにもできることを実証した。

プロフィール



テス飯島舞台写真

管弦楽　新交響楽団　　ピアノ　中村　均・渡辺　達

サラリーマン・学生・主婦など100余名から成る純粋なアマチュア・オーケストラ。'56年創立。これまでに78回の演奏会を主催，'66年北海道演奏旅行，'66年ベートーヴェンの全交響曲連続演奏会，'67年訪ソ親善演奏旅行，'69年九州沖縄芸術祭参加演奏旅行，'75年ストラビンスキー三部作演奏会等，意欲的な演奏活動を展開。創立以来の指揮者である芥川也寸志の献身的な指導により，最高のアマチュア・オーケストラに成長。'76年の創立20周年記念演奏会「日本の交響作品展」では，これまで埋もれていた戦前の作品を二夜にわたって紹介，その企画と演奏は絶賛を博し，芥川氏とともに第8回鳥井音楽賞を受賞（アマチュアとして初の受賞）。



ソプラノ　常森寿子

東京芸術大学卒業。阿部幸次，浅野千鶴子，ジョルジョ・ファバレット，ロート・マーリングに師事。'66年藤原歌劇団「カルメン」のミカエラでデビュー。その後，「マノン」のブセット，ＮＨＫ放送オペラ「暗い鏡」等に出演。'68年渡伊，ローマのサンタチェチリア音楽院，シエナ，ミラノ，スイスのルガーノに留学し，'72年帰国。その間，'70年ロニーゴ国際コンクール第２位，ジュネーブ国際コンクール銀賞（第３位）を受賞。帰国後，「フィガロの結婚」のスザンナ，「ドン・ジョヴァンニ」のツェルリーナ，「電話」のルーシーなどを演じ，'73年にはリサイタルを２回開催。'77年二期会オペラ「フィデリオ」のマルツェリーネ，「ルチア」のルチアを演唱，第５回ウィンナーワールドオペラ賞を受賞。またＮ響定期等のソリストとしても活躍。二期会会員。



テノール　丹羽勝海

東京芸術大学卒業，同大学院修了。磯谷威，古沢淑子，中山悌一，ロドルフォ・リッチに師事。'61～'65年カリフォルニア大学，ジュリアード音楽院に留学。'66年「コシ・ファン・トゥッテ」のグリエルモでバリトンとしてデビュー。その後テノールに転じ，'67年「蝶々夫人」のピンカートンでデビュー，'68年渡米公演「聟えらび」（清水脩作曲）の三十郎をはじめ「ラインの黄金」（万博公演）のフロー，「椿姫」のアルフレード，「カルメン」のドン・ホセ，「ワルキューレ」のジークムント等幅広く活躍，特に'73年「カテリーナイズマルロヴァ」（日本初演）のセルゲイの演唱は話題を呼んだ。最近では「オテロ」「タンホイザー」のタイトルロール等を演唱，コンサートでも「第九」「カルミナ・ブラーナ」等のソリストとして活躍している。二期会会員。



バリトン　栗林義信

東京芸術大学卒業。矢田部勁吉，柴田睦陸に師事。'56年音楽コンクール第１位，'57年文化放送賞を受賞。'62年「トスカ」のスカルピアにより毎日音楽賞を受賞。'58年渡伊，ビオッティ国際音楽コンクールで金賞受賞。'60年帰国後はバリトンの第一人者として活躍を続けている。'68年ソ連文化省の招きで訪ソ，'69年政府派遣文化使節として「夕鶴」台北・マニラ公演に参加。'71年「リゴレット」の制作を担当，'72年「ボエーム」のマルチェルロ「蒼き狼」（高田三郎曲）のジンギス汗の演唱で毎日芸術賞を受賞。その後も「ジプシー男爵」のホモナイ伯爵「マクベス」のマクベス等幅広く活躍。'75年には「リゴレット」のタイトルロール「パリアッチ」のトニオ，「オテロ」のイヤーゴ等の活躍により，第７回鳥井音楽賞を受賞。二期会会員。



児童合唱　練馬児童合唱団

'70年練馬公民館の「こども講座」として発足，区内の歌の好きな小・中学生約90名が毎週日曜日，公民館に集まり，楽しく練習している。これまでに練馬混声合唱団，東京ホームコーラス等の賛助出演で，「サウンド・オブ・ミュージック」「カルメン」「白雪姫と７人の小人たち」「くるみわり人形」「森の歌」「マッチ売りの少女」等を歌い，好評を博した。本年７月には第１回定期演奏会を開き，今後いっそうの活躍が期待されている。



児童合唱指揮　高瀬新一郎

'67年国立音楽大学卒業。合唱音楽を岡本敏明，指揮法を高階正光に師事。練馬児童合唱団のほか，練馬混声合唱団，練馬女声コーラスの指揮者。

CATULLI CARMINA　カトゥーリ　カルミナ

（演奏部分）

Praelusio　プレリュード

Coro(Juvenes, juvenculae)　合　唱（若者たち，娘たち）

Juvenes, Juvenculae: Eis aiona!

若者，娘：いつまでも！

tui sum!
o mea vita,
Eis aiona!

いつまでも！
私はあなたのもの！
おお　あなたは私の命，
いつまでも！

Juvenes: Tu mihi cara,
mi cara amicula,
corculum es!

若者：僕のただひとりの，
ただひとりの恋人，
かわいいよ！

Juvenculae: corculum es!

娘：かわいいよ！

Juvenes: Tu mihi corculum,
tu mihi corculum!

若者：君は本当にかわいい，
君は本当にかわいいね！

Juvenculae: corcule, corcule,
dic mi, dic mi,
a te me amari!

娘：好きよ，大好きよ，
言って，ねえ言って，
愛してるよって！

Juvenes: O tui oculi,
ocelli lucidi,
fulgurant, efferunt
me velut specula.

若者：ああ，君のひとみが
きらきら輝いて
僕を映してる
鏡のように。

Juvenculae: specula, specula,
tu mihi specula?

娘：鏡，鏡，
あなたは私の鏡なの？

Juvenes: O tua blandula
blanda, blandicula,
tua labella.

若者：ああ，君のすてきな
かわいらしい，
君の唇。

Juvenculae: cave, cave,
cave, cavete!

娘：気をつけて，気をつけて，
気をつけてよ，あなたたち！

Juvenes: ad ludum prolectant.

若者：むらむらとさせるね。

Juvenculae: cave, cave,
cave, cavete!

娘：気をつけて，気をつけて，
気をつけてよ，あなたたち！

Juvenes: O tua lingula,
lingula, lingula,
usque perniciter
vibrans ut vipera.

若者：ああ，君の小さな舌
かわいい舌，このかわいい舌，
ぺらぺらと
ヘビのように動きまわる。

Juvenculae: Cave, cave,
cave, cavete
cave meam viperam,
misi te mordet.

娘：気をつけて，気をつけて，
気をつけてよ，あなたたち
気をつけて，私のヘビに，
あなたたちに，かみつくわ。

Juvenes: Morde me!

若者：かんで！

Juvenculae: Basia me!

娘：キスして！

Juvenes, Juvenculae: ha!

Juvenes: O tuae mammulae,
mammulae!

若者：ああ　君の乳房
乳房！

Juvenculae: mammulae!

Juvenes: mammae molliculae,

Juvenculae: mammae molliculae,

Juvenes: dulciter turgidae,
gemina poma!

Juvenes, Juvenculae: Ah!

Juvenes: mea manus est cupida,
cupida, cupida,

Solo: O vos papillae
horridulae!

Juvenes: mea manus est cupida,
cupida, cupida,
illas prensare,

Juvenculae: Suave, suave,
suave, lenire,

Juvenes: illas prensare,
vehementer prensare,

Juvenes, Juvencudae: ha!

Juvenculae: O tua mentula,
mentula!

Juvenes: mentula!

Juvenculae: cupide saliens

Juvenes: peni peni culus

Juvenculae: velut pisciculus

Juvenes: is qui desiderat
tuem forticulam

Juvenculae: mea manus est cupida,
cupida, cupida,

Solo: coda, codicula,
avida, avida!

Juvenculae: mea manus est cupida,
cupida, cupida
illam captare,

Juvenes: petulanti manicula!

Juvenculae: illam captare.

Juvenes: Tu es Venus,
Venus es!

Juvenculae: O me felicem.

Juvenes: In te,
in te habitant
omnia gaudia,
omnes dulcedines,
omnis voluptas.
In te,
in tuo amplexu
in tuo ingente amplexu
tota est,
mihi vita.

Juvenculae: O me felicem!!

Juvenes, Juvenculae: Eis aiona!
Eis aiona!

娘：乳房！
若者：やわらかな乳房，
娘：やわらかな乳房，
若者：すてきにふくらんでる
二つの果実！

若者：僕の手が飢えている，
飢えている，飢えている，
(ソロ)若者：ああ　おまえたち　乳首というのは
なんて奇怪なんだ！
若者：僕の手が飢えている，
飢えている，飢えている，
手よ　乳房にさわれ，
娘：気持よく，気持よく
気持よく，そっとね，
若者：さわれ
もっと強くさわれ，

娘：ああ　あなたのペニス，
ペニス！
若者：ペニス！
娘：さかんに噴き出してるわ
若者：小さい尻尾
娘：ちょうど小魚のようだわ
若者：君の小さな泉の中で
泳ぎたがっているよ
娘：私の手は飢えている，
飢えている，飢えている，
(ソロ)娘：尻尾，小さな尻尾，
はやく，待てないわ！
娘：私の手は飢えている，
飢えている，飢えている，
手よ，その尻尾をつかまえて，
若者：みだらな小さな手！
娘：つかまえて。

若者：君はヴィナス，
ヴィナスだ！
娘：ああ　幸せよ。
若者：君のうちに
君のうちにはある
すべての喜び
すべての甘美さ
すべての情熱が。
君を，
君を抱けば
君をしっかりと抱けば
すべてがある，
僕にとって，生きるということの。
娘：ああ　幸せよ‼
若者，娘：いつまでも！
いつまでも！

TRIONFO DI AFRODITE アフロディーテの勝利

（演奏部分）

Inno All' Imeneo　ヒュメナイオス讃歌

Quis deus magis est amatis petendus amantibus? quem colent homines magis caelitum? O Hymenaee, Hymen, o Hymen Hymenaee.

あなたの他のどの神が，愛する人々
愛される人々に仰がれるというのでしょう。
あなたの他にどの神を崇むのがよいというの
でしょう。おお婚礼の神，ヒュメナイオス，
おお　ヒュメナイオス，婚礼の神よ。

te suis tremulus parens invocat, tibi virgines zonula soluunt sinus, te timens cupida novus captat aure maritus.

老いた親は子孫のためにあなたを
呼び，乙女たちはあなたのゆえに
腰の帯を解くのです。
あなたを恐れながらも新しい夫は
情熱に燃える耳をそばだたせます。

tu fero iuveni in manus floridam ipse puellulam dedis a gremio suae matris, o Hymenaee Hymen, o Hymen Hymenaee.

あなたは御自ら，花のような乙女を
その母の腕の中から夫となる若者の
力の下へとお連れになります。
おお　婚礼の神ヒュメナイオス
おお　ヒュメナイオス，婚礼の神よ。

nil potest sine te Venus fama quod bona comprobet commodi capere: at potest te votente, quis huic deo compararier ausit?

あなたなしではヴィーナスも
敬愛にあたうるどんなよいことも
できません。しかし，あなたが欲すれば
できるのです。だれがあなたと
敢えて競おうというのでしょう。

nulla quit sine te domus liberos dare, nec parens stirpe nitier: at potest te volente, quis huic deo compararier ausit?

あなたなしではどの家でも，子をもうけることも
できません。どの親も，子孫の栄えを見ることも
できません。しかし，あなたが欲すればできるのです。
だれがあなたと敢えて競おうと
いうのでしょう。

Quae tuis careat sacris non queat dare praesides terra finibus: at queat te volente, quis huic deo compararier ausit?

あなたの聖壇のない国では，その
国境を守備兵で守ることもできません。
しかし，あなたが欲すればできるのです。
だれがあなたと敢えて競おうと
いうのでしょう。

Inoocazione Dell' Imeneo

ヒュメナイオスへの祈願

Collis o Heliconii
cultor, Uraniae genus,
qui rapis teneram ad virum
virginem, o Hymenaee Hymen,
o Hymen Hymenaee,

おお，ヘリコーンの丘の住人
ウーラニアの子よ，
あなたはやさしい乙女をその夫のもとへ
お運びになる，おお　婚礼の神ヒュメナイオス，
おお　ヒュメナイオス，婚礼の神よ。

cinge tempora floribus
suave olentis amaraci,
flammeum cape, laetus huc,
huc veni niveo gerens
luteum pede soccum.

額をかぐわしいマヨラナの花飾りで
巻いて，紅のベールを冠り，喜びあふれて
さあこちらへ，雪のように白い足には
黄金色の靴をはいて，さあどうぞ
こちらへおいでください。

Excitusque hilari die
nuptialia concinens
voce carmina tinnula
pelle humum pedibus, manu
pineam quate taedam.

このめでたい日に呼びおこされて，
婚礼の美しい歌を，
高らかに響く声で歌い，
地面を踏みならして，
婚礼の松明をその手でお振りください。

quare age huc aditum ferens
perge linquere Thespiae
rupis Aonios specus,
nympha quos super irrigat
frigerans Aganippe.

ですからさあどうぞおいでください。
泉の精アガニッペが
水をそそいでは冷やしている
テスピアの岩の，アオニアの洞を
さあどうぞお発ちになって。

ac domum dominam voca
coniugis cupidam novi,
mentem amore revinciens
ut tenax edera huc et huc
arborem implicat errans.

木づたがそこここと迷い歩きながら
木にしっかりとからみつくように
愛の心でまといつき
まだ見ぬ夫を恋い慕う
新妻を家へとお呼びください。

Vosque item simul, integrae
virgines, quibus advenit
par dies, agite in modum
dicite, o Hymenaee Hymen,
o Hymen Hymenaee,

あなたたちもいっしょになさい，
まだ夫にまみえぬ乙女たちよ，同様の
日がすぐに来るのだから。声をそろえて
唱えなさい，おお　婚礼の神ヒュメナイオス，
おお　ヒュメナイオス，婚礼の神よ。

ut libentius, audiens
se citarier ad suum
munus, huc aditum ferat
dux bonae Veneris, boni
coniugator amoris.

美しいヴィーナスの案内役
正しい愛の仲人に，つとめを知らせる
呼び声を聞かれたならば
喜びあふれて
こちらへ急いでおいで下さい。

FORTUNA IMPERATRIX MUNDI

1. O FORTUNA

Coro

O Fortuna,
velut Luna
statu variabilis,
semper crescis
aut decrescis;
vita detestabilis
nunc obdurat
et tunc curat
ludo mentis aciem,
egestatem,
potestatem
dissolvit ut glaciem.

Sors immanis
et inanis,
rota tu volubilis,
status malus,
vana salus
semper dissolubilis,
obumbrata
et velata
michi quoque niteris;
nunc per ludum
dorsum nudum
fero tui sceleris.

Sors salutis
et virtutis
michi nunc contraria
est affectus
et defectus
semper in angaria.
Hac in hora
sine mora
corde pulsum tangite;
quod per sortem
sternit fortem,
mecum omnes plangite!

2. FORTUNE PLANGO VULNERA

Coro

Fortune plango vulnera
stillantibus ocellis,
quod sua michi munera
subtrahit rebellia.
Verum est quod legitur,
fronte capillats,

カルミナ　ブラーナ

運命の女神，この世の支配者なる

1．おお運命の女神よ
合　唱

おお運命の女神よ
ちょうど月のように
その姿を変えてゆく。
いつも満ち
あるいは欠ける。
このけがらわしい世の中で
今はひどい目にあわすかと思えば
次にはやたらにやさしく，
我々の警戒心を翻弄する。
貧窮も
権力も
すべて氷のようにとかし去る。

巨大な
空虚な運命よ
おまえは廻り廻る車輪だ。
性悪で
はかない幸運すら
たちまち消し去ってしまう。
光を避けて
ベールに隠れ
今度は私にかかってこようというのか。
ではたわむれに
このあらわな背中で
おまえの悪業を背負うとしよう。

幸運をも
力をも
私から奪い取り
そしてさいなみ
見捨て去るのだ
いつもおまえの思うがままに。
ならばここで
今すぐにも
弦をかきならし歌おうではないか。
“いかなる強者をも
打ちひしぐ運命を
人みな我とともに泣くがよい！”

2．運命の女神の与えた傷手に
合　唱

運命の女神の与えた傷手に
涙を流し私は嘆く。
かつて運命のもたらした贈り物も
いつの間にか奪い去られた。
ああ全くだ，本にいうとおり
運命の額に髪は豊かだが，

sed plerumque sequitur
occasio calvata.

In Fortune solio
sederam elatus,
prosperitatis vario
flore coronatus;
quicquid enim florui
felix et beatus,
nunc a summo corrui
gloria privatus.

Fortune rota volvitur:
descendo minoratus;
alter in altum tollitur;
nimis exaltatus
rex sedet in vertice
caveat ruinam!
nam sub axe legimus
Hecubam reginam.

I　PRIMO VERE

3. VERIS LET A FACIES
Coro piccolo

Veris leta facies
mundo propinatur,
hiemalis acies
victa iam fugatur.
In vestitu vario
Flora principatur,
nemorum dulcisono,
que cantu celebratur.

Flore fusus gremio
Phebus novo more
risum dat, hoc vario
iam stipate flore.
Zephyrus nectareo
spirans in odore;
certatim pro bravio
curramus in amore.

Cytharizat cantico
dulcis Philomena,
Flore rident vario
prata iam serena,
salit cetus avium
silve per amena,
chorus promit virginum
iam gaudia millena.

4. OMNIA SOL TEMPERAT
Solo-Baritono

Omnia Sol temperat
purus et subtilis,
novo mundo reserat

それに続く機会というやからは
だいたいははげ頭なのだ。

運命の女神の王座に
私はおごり高ぶって坐っていた，
栄華のしるし
色とりどりの花に包まれて。
じつにあのように繁栄し
幸福で，祝福されていたのに
いまやその頂上から崩れ落ち
栄光もすべて奪われてしまった。

運命の女神の車輪は廻る
廻り下り，おとしめられる者があれば，
また一方，高く上り栄える者がいる。
あまりに得意満面に
頂上に王として坐する者よ
没落に心するがよい！
なぜならば，車輪のちょうど真下には
（かつて栄え，今はほろぼされた）
女王ヘクバの名が見えるのだから。

I　春のはじめに

3．春のはれやかな面ざしが
小合唱

春のはれやかな面ざしが
再びこの天地にやってきた。
冬のきびしい寒気は
敗れ去り，今逃げてゆく。
色とりどりの衣をつけて
春の女神フローラは君臨し，
森の奏でるやさしい音色，
その歌に祝福される。

フローラの膝に横たわり
日の神フィーブスはあらためてほほえむ。
そのまわりをば
とりどりの花がとりまき，
西風ゼファーは甘い神酒の
香りをふりまき，吹きすぎてゆく。
さあ，みな，賞をかちえるために
競って恋をしようではないか。

やさしいナイチンゲールが
先がけて歌う。
とりどりの花にほほえむのは
光あふれる牧場。
鳥の群れは
喜び満ちる森を飛びかい
乙女たちの歌声は
千万の歓喜をさしまねく。

4．太陽は万物を暖かく照らす
バリトン独唱

太陽は万物を暖かく照らす
清らかに，細やかに。
そして四月の姿をば

faciem Aprilis,
ad Amorem properat
animus herilis,
et iocundis imperat
deus puerilis.

新しい世界へと解き放つ。
愛のもとへと
主の心は奔り，
心うれしい人々のうえ
キューピッドが君臨する。

Rerum tanta novitas
in sollemni vere
et veris auctoritas
iubet nos gaudere;
vias prebet solitas,
et in tuo vere
fides est et probitas
tuum retinere.

あらゆるものの新しい生命が
この春の式典に
春の力と権威をもって
汝ら喜べと命令する。
そして春には
汝が愛するものをつなぎとめて
それでこそよいのだと
いつもの道を指し示す。

Ama me fideliter!
fidem meam nota:
de corde totaliter
et ex mente tota
sum presentialiter
absens in remota,
quisquis amat taliter,
volvitur in rota.

愛しておくれまことをもって
心にとめておくれ私のまことを。
心の底から残りもなく
私の魂はさながらに
おまえの目の前にいるのだよ，
身は遠くはなれたとて。
このように人を愛する者は
車の廻るように変転する。

5. ECCE GRATUM

Coro

5．ごらん楽しい

合　唱

Ecce gratum
et optatum
Ver reducit gaudia;
purpuratum
floret pratum,
Sol serenat omnia.
Iamiam cedant tristia!
Estas redit,
nunc recedit
Hyemis sevitia.

みてごらん楽しい
すてきな春が
喜びを僕たちに返してくれたんだ。
牧場は真紅の花ざかり
太陽はすべての上に
さんさんと降りそそぐ。
さあ，悲しみなど行っておしまい！
夏がやってきて
きびしい冬は
もう過ぎ去ってしまうのさ。

Iam liquescit
et decrescit
grando, nix et cetera,
bruma fugit,
et iam sugit
Ver Estatis ubera;
illi mens est misera,
qui nec vivit,
nec lascivit
sub Estatis dextra.

もう，とけて
消えてしまうんだ，
あられも雪も，あれもこれも。
冬は逃げ去り
今は春が
夏の乳房を吸っている。
夏がすぐにもやってくるこの時に
楽しく暮らさないなんて
思い切り気ままに生きないなんて
どうにかしているよ。

Gloriantur
et letantur
in melle dulcedinis,
qui conantur,
ut utantur
premio Cupidinis,
simus jussu Cypridis
gloriantes
et letantes
pares esse Paridis

誇らかに，
楽しげにおやりよ，
甘美な蜜の思いにひたり
自ら
キューピッドの贈り物を
得ようとするならば。
では我々もヴィナスの命により
花々しく
陽気にやって
パリスと同じようではないか。

UF DEM ANGER

6. TANZ

Orchestra

7. FLORET SILVA

Coro

Floret silva nobilis
floribus et foliis.
Ubi est antiquus
meus amicus?
hinc equitavit,
eia, quis me amabit?

Floret silva undique,
nach mime gesellen ist mir wê.
Gruonet der walt allenthalben,
wâ ist min geselle alse lange?
der ist geriten hinnen,
owi, wer sol mich minnen?

8. CHRAMER, GLIP DIE VARWE MIR

Coro

Chramer, grip die varwe mir,
die min wengel roete,
damit ich die jungen man
an ir dank der minnenliebe noete.
Seht mich an,
jungen man!
lat mich iu gevallen.

Minnet, tugentliche man,
minnecliche frouwen!
minne tuot iu hoch gemuot
unde lat iuch in hohen eren shouwen.
Seht mich an .....

Wol dir, Werlt, daz du bist
also freudenrich!
ich wil dir sin undertan
durch din liebe immer sicherliche.
Seht mich an .....

9. REIE

Orchestra

Swaz hie gat umbe

Coro

Swaz hie gat umbe,
daz sint alles megede,
die wellent an man.
alle disen sumer gan!

Chume, chum, geselle min

Coro piccolo

Chume, chum, geselle min,

草の上で

6．踊　り

オーケストラ

7．森は花ざかり

合　唱

森はすばらしい花ざかり
花は笑み葉は茂る。
どこにいるのだろう
あたしの昔の恋しい人は。
ここから馬に乗って行ってしまった。
ああ，誰が私を愛してくれるというの？

森はいずこも花ざかり
あの人が恋しくて悲しいわ
森はどこも緑だというのに
私のあの人はどこにいるの，こんなに長いこと。
馬に乗って行ってしまったのよ。
ああ，誰が私を愛してくれるの？

8．店のおじさん，紅を下さい

小合唱

お店のおじさん，紅をください，
あたしの頬をそめるんです。
それでもってあたし，若い男達に
あたしのこと　好きにさせちゃうつもりなの。
　ほら見てごらん私のこと
　若いお兄さんたち！
　楽しませてあげるわよ。

恋をなさいよ！お行儀のいいお兄さんたち！
恋をなさい！すてきな娘さんたちも！
恋すれば，陽気になるし，
それに誇らしい気持にしてくれるものよ。
　ほら　見てごらん……

万歳！　この世界よ，あんたが
こんなに喜びに満ちているなんて！
あたしはあんたのしもべになるわ。
そうすればあんたのお慈悲でいつも安心だわ。
　ほら　見てごらん……

9．円舞曲

オーケストラ

ここで輪になって踊るのは

合　唱

ここで輪になって踊っているのは
みな乙女たち
みなこの夏中は
だれも男を欲しがらない。

来てよ，来てよ，恋しい人

小合唱

来てよ，来てちょうだい，恋しい人

ih enbite harte din,
ih enbite harte din,
chume, chum, geselle min.

Suzer rosenvarwer munt,
chum uñ mache mich gesunt,
chum uñ mache mich gesunt,
suzer roservarwer munt.

Swaz hie gat umbe
Coro

Swaz hie gat umbe .....

10. WERE DIU WERLT ALLE MIN
Coro

Were diu werlt alle min
von deme mere unze and den Rin,
des wolt ih mih darben,
daz diu chünegin von Engellant,
lege an minen armen.
Hei!

ほんとに　待ってるのよ
ほんとに　待ってるのよ
来てよ，来てちょうだい，恋しい人。

かわいいバラ色の唇の乙女よ
ここへ来て，私を元気にしておくれ
ここへ来て，私を元気にしておくれ
かわいいバラ色の唇の乙女よ。

ここで輪になって踊るのは

合　唱

ここで輪になって踊っているのは……

10．たとえこの世がすべて私のものでも

合　唱

たとえこの世界がすべて私のものでも
つまり海からライン川までということだが，
私は喜んでそれを捨てよう
イングランドの女王様を
私の腕に横たえられるなら。

II　IN TABERNA

11. ESTUANS INTERIUS

Solo-Baritono

Estuans interius
ira vehementi
in amaritudine
loquor mee menti:
factus de materia
cinis elementi
similis sum folio
de quo ludunt venti.

Cum sit enim proprium
viro sapienti
supra petram ponere
sedem fundamenti,
stultus ego comparor
fluvio labenti,
sub eodem tramite
nunquam permanenti.

Feror ego veluti
sine nauta navis,
ut per vias aeris
vaga fertur avis,
non me tenent vincula,
non me tenent clavis,
quero mihi similes,
et adiungor pravis.

Mihi cordis gravitas
res videtur gravis,

II　酒場で

11．オレ様の心のうちは……

バリトン独唱

オレ様の心のうちは
激しく腹立ち煮えかえるよう
苦い思いをかみ殺し
己の心に言いきかす
“この身は所詮，できてるのさ，
灰みたいなつまらぬものでよ，
風にあおりなぶられている
木の葉っぱも同じこと。”

どっしりとした岩の上，
どっかと居所を定めるのが
賢人なるものの
やりようならば
さしずめ，阿呆なオレ様は
流れ定めぬ川ってところさ。
ここを流れれば
次にはあらら。

オレ様は流れてゆくのさ
水夫もいない船のように
さもなきゃ，空を一すじ
あてもなく飛び去る鳥のように。
鎖もオレ様をつなげない
錠もオレ様をとめられない
どこかで同類を捜し出して
はみ出し者の契りを結ぶ。

まじめな気持なぞ
うっとうしいだけさ

iocus est amabilis
dulciorque favis;
quicquid Venus imperat,
labor est suavis
que nunquam in cordibus
habitat ignavis.

快楽こそがすてきなもの
蜜より甘く楽しいのさ。
ヴィナスのおっしゃることならば
どんな骨折りもうれしいもの
なまけ心には
ヴィナスもお宿りにならないさ。

Via lata gradior
more iuventutis,
inplicor et vitiis
iramemor virtutis,
voluptatis avidus
magis quam salutis,
mortuus in anima
curam gero cutis.

広い通りをねり歩く
若い者みたいな気でさ，
乱暴ろうぜき好きなだけ
道徳なんぞ知るものかは。
好き放題にいい思いをして
体のことなどおかまいなし
もう魂は死んじまったもの
せめて身の皮を楽しまそうじゃないか。

12. OLIM LACUS COLUERAM

Solo-Tenore

Olim lacus colueram,
olim pulcher extiteram,
dum cignus ego fueram,

12. あぶられた白鳥の歌

テノール独唱

昔は私も湖に住んでいて
昔は私も美しいものだった。
昔，私が白鳥だった頃は。

Coro

Miser, miser!
modo niger
et ustus fortiter!

男声合唱

ああなんて情けない。
今はまっ黒こげに
されちまって。

Solo-Tenore

Girat, regirat garcifer;
me rogus urit fortiter:
propinat me nunc dapifer,

テノール独唱

ぐるぐる，ぐるぐると焼き串が回る。
薪は私をこんがり焼いて
今は給仕が私を配ってゆく。

Coro

Miser, miser .....

男声合唱

ああなんて情けない……

Solo-Tenore

Nunc in scutella iaceo,
et volitare nequeo,
dentes fredentes video:

テノール独唱

今は角皿の上にのせられて
逃げまわることもできない。
がちがちかみ合う歯が見える。

Coro

Miser, miser .....

男声合唱

ああなんて情けない……

13. EGO SUM ABBAS

Solo-Baritono

Ego sum abbas Cucaniensis
et consilium meum est cum bibulis,
et in secta Decii voluntas mea est,
et qui mane me quesierit in taberna,
post vesperam nudus egredietur,
et sic denudatus veste clamabit:

13. 予は大僧正じゃ

バリトン独唱

予は逸楽郷の大僧正じゃ。
清酒(聖書)のことは頭から離れず
予の願いはサイの目宗派とともにある。
だから朝方，酒場に予を尋ね来た者は
晩も過ぎた頃，裸で帰ってゆくであろうよ。
それで身ぐるみはがれて泣くだろうよ。

Solo (Baritonon), Coro

Wafna! Wafna!
quid fecisti sors turpissima?
Nostre vite gaudia
abstulisti omnia!
Ha ha!

14. IN TABERNA QUANDO SUMUS

Coro

In taberna quando sumus,
non curamus quid sit humus,
sed ad ludum properamus,
cui semper insudamus.
Quid agatur in taberna,
ubi nummus est pincerna,
hoc est opus ut queratur,
si quid loquar, audiatur.

Quidam ludunt, quidam bibunt,
quidam indiscrete vivunt.
Sed in ludo qui morantur,
ex his quidam denudantur,
quidam ibi vestiuntur,
quidam saccis induuntur.
Ibi nullus timet mortem,
sed pro Baccho mittunt sortem.

Primo pro nummata vini,
ex hac bibunt libertini;
semel bibunt pro captivis,
post hec bibunt ter pro vivis,
quater pro Christianis cunctis,
quinquies pro fidelibus defunctis,
sexies pro sororibus vanis,
septies pro militibus silvanis.

Octies pro fratribus perversis,
nonies pro monachis dispersis
decies pro navigantibus,
undecies pro discordantibus,
duodecies pro penitentibus,
tredecies pro iter agentibus.
tam pro papa quam pro rege
bibunt omnes sine lege.

Bibit hera, bibit herus,
bibit miles, bibit clerus,
bibit ille, bibit illa,
bibit servus cum ancilla,
bibit velox, bibit piger,
bibit albus, bibit niger,
bibit constans, bibit vagus,
bibit rudis, bibit magus.

Bibit pauper et egrotus,
bibit exul et ignotus,
bibit puer, bibit canus,
bibit presul et decanus,
bibit soror, bibit frater,

バリトン独唱と男声合唱

“やれやれ，情けなや
何をやらかしてくれたんだ，きたない運というやつは
ワシらの人生の喜びを
何もかもさらって行ってしまった。”

14. 酒場におれたちがいるときにゃ！
男声合唱

酒場に俺たちがいるときにゃ
冥土のことなど思いもしない。
それよか急いで遊びにかかり，
それでいつでも汗まみれ。
酒場で何をばするかといえば
ここでは銭が酌婦役。
聞いて絶対損はない，
話してやるよ，さあ聞きな。

ある奴ァ賭事，ある奴ァ飲んでる
中にゃ両刀使いの奴も
ところがサイコロ振り続けた日にゃ
中にゃ身ぐるみはがれちまう奴
ちゃんとお召しのもいるにはいるが
金袋にくるまる奴もある。
とにかくどいつも命しらずで
酒代ねらってサイを振る。

まずは酒代ころがり込むように
でなけりゃ道楽者，酒にありつけぬ。
一度は囚われ人のために飲む。
それから三度，この生ける身のため
四度，すべてのクリスト信者に。
五度，殉教者のために。
六度，浮気な尼さんたちのために。
七度，森の守護兵のために飲む。

八度，道をはずれた仲間のために
九度，遁走した坊さんのために。
十度，船乗りたちのために。
十一度，喧嘩好きのために。
十二度，悔い改めた者のために。
十三度，旅をゆく者のために。
それから法皇にも，国王にも同じだけ，
だれもかれも，やたら飲むのだ。

女房が飲めば，亭主も飲む。
兵隊も飲む，牧師も飲む。
この男が飲む，あの女が飲む。
下男も飲めば，女中も飲む。
すばしこい奴も，うすのろも，
白いのが飲めば，黒いのも飲む。
常連も飲む，流れ者も飲む。
ばか者も飲む，賢いのも飲む。

貧乏人も，病人も飲む。
追放者も，よそ者も飲む。
若者も飲む，爺さんも飲む。
司祭が飲めば，司祭長も飲む。
姉が飲み，兄が飲む。

bibit anus, bibit mater,
bibit isa, bibit ille,
bibunt centum, bibunt mille.

Parum sexcente nummate
durant cum immoderate
bibunt omnes sine meta,
quamvis bibant mente leta;
sic nos rodunt omnes gentes,
et sic erimus egentes.
Qui nos rodunt condundantur
et cum iustis non scribantur.

婆さんが飲めば，おふくろさんも，
その女も，あの男も，
百人も飲む，千人も飲む。

六百文じゃ少なくて，
もつものじゃない，みんな勝手気まま，
際限もなく飲むのだから，
また，よし，気分よく飲むにしたって，
どこの奴らも俺たちの悪口をたたき
俺たちゃいつも文なしになる。
俺たちの悪口たたくやつらは
善人のリストからはみ出るがいい！

III COUR D'AMOUR

III 愛のいざない

15. AMOR VOLAT UNDIQUE
Regazzi

Amor volat undique;
captus est libidine.
Iuvenes, iuvencule
coniunguntur merito.

15. 愛の神はそこかしこに飛びまわる
児童合唱

愛の神はそこかしこととびまわる。
いとしい思いにとらえられて
若者たちと娘たちが
結ばれるのもあたりまえ。

Solo-Soprano

Siqua sine socio,
caret omni gaudio,
tenet noctis infima
sub intimo
cordis in custodia:

ソプラノ独唱

娘に契る相手がなけれゃ，
娘は何の歓びもなしに暮らす。
一ばん底深い夜の闇を
心の奥に
しっかりしまい，とじ込める。

Regazzi

fit res amarissima.

児童合唱

何とひどい話じゃないか。

16. DIES, NOX ET OMNIA
Solo-Baritono

Dies, nox et omnia
michi sunt contraria,
virginum colloquia
me fay planszer,
oy suvenz suspirer,
plu me fay temer.

16. 昼も夜も，なにもかも
バリトン独唱

昼も，夜も，そしてなにもかもが
私を辛くする。
乙女たちの話す声も
私を泣かせ，涙を誘う。
ああ，そして嘆息するたびに
ますます不安がつのるのだ。

O sodales, ludite,
vos qui scitis dicite,
michi mesto parcite,
grand ey dolur,
attamen consulite
per voster honur.

おお友人たちよ，遊ぶがいいさ。
もし，わかるなら教えておくれ，
私の悲しみをいたわっておくれ，
私の悩みは深いのだから。
だが君たちの名誉にかけて，
私に何とか言っておくれ。

Tua pulchra facies,
me fay planszer milies,
pectus habens glacies,
a remender
statim vivus fierem
per un baser.

あなたの美しいおもかげは，
私に千度も涙をこぼさせる。
あなたの心は凍っているのか，
私を救おうというのなら
すぐにも息をふき返すのに
たった一度の接吻で。

17. STETIT PUELLA
Solo-Soprano

Stetit puella
rufa tunica,
si quis cam tetigit,
tunica crepuit.
Eia.

Stetit puella
tamquam rosula;
facie splenduit,
os eius floruit.
Eia.

17. 乙女が立っていた
ソプラノ独唱

乙女が立っていた
赤い衣をつけて,
誰かがさわると
衣はさらさら音立てた。
エーイア。

乙女が立っていた
小さなバラの花のように。
顔は輝いて
唇は花のようにほほえんでいた。
エーイア。

18. CIRCA MEA PECTORA
Solo (Baritono), Coro

Circa mea pectora
multa sunt suspiria
de tua pulchritudine,
que me ledunt misere.

Manda liet,
manda liet,
min geselle
chumet niet!

Solo (Baritono), Coro

Tui lucent oculi
sicut solis radii,
sicut splendor fulguris
lucem dona tenebris.

Coro

Manda liet .....

Solo (Baritono), Coro

Vellet deus, vellent dii
quod mente proposui:
ut eius virginea
reserassem vincula.

Coro

Manda liet .....

18. 私の胸のあたりには
バリトン独唱と男声合唱

私の胸のあたりには
ため息ばかりふりつもる。
君のあまりの美しさに
私の心はみじめに傷む。

マンダリエト
マンダリエト
私の恋人は
来ない。

バリトン独唱と男声合唱

君の眼の輝きは
太陽の照らす光のように
はしる稲妻のひらめきのように
闇夜に光を投げかける。

女声合唱

マンダリエト……

バリトン独唱と男声合唱

神よ，神々よ　許したまえ
私の心の企てを，
あの娘の処女の絆
私が解きほどこうという。

女声合唱

マンダリエト……

19. SIPUER CUM PUELLULA
Soli (Tenori, Baritono, Bassi)

Si puer cum puellula
moraretur in cellula,
felix coniunctio.
Amore suscrescente,
pariter e medio
avulso procul tedio,
fit ludus ineffabilis
membris, lacertis, labiis.

19. もし若者と娘とが
独唱（テノール，バリトン，バス）

もし若者と娘とが
小部屋にいれば
二人の絆はしあわせなもの
いとしい心が芽生えきて
二人の間の
もの憂さも晴れれば

20. VENI, VENI, VENIAS
Coro doppio

Veni, veni, venias,
ne me mori facias,
hyrca hyrca, nazaza
trillirivos!

Pulchra tibi facies,
oculorum acies,
capillorum series,
o quam clara species!

Rosa rubicundior,
lilio candidior,
omnibus formosior,
semper in te glorior!

21. IN TRUTINA
Solo-Soprani

In trutina mentis dubia
fluctuant contraria
lascivus amor et pudicitia.
Sed eligo quod video,
collum iugo prebeo;
ad iugum tamen suave transeo.

22. TEMPUS EST IOCUNDUM
Coro

Tempus est iocundum,
o virgines,
modo congaudete
vos iuvenes.

Solo-Baritono

Oh oh,
Totus floreo
iam amore virginali
totus ardeo,
novus, novus amor
est, quo pereo.

Coro

Mea me confortat
promissio,
mea me deportat
negatio.

Solo (Soprani), Ragazzi

Oh oh .....

口につくせぬ戯れごとを
手足で，腕で，唇で。

20．おいで，おいでよ，さあ
二重合唱

おいで，おいでよ，さあおいで
そんなに僕を焦らさないで
ヒルカ，ヒルカ ナーザーザ
トゥリリリーヴォス

君の顔はほんとにきれいだ，
瞳はキラキラ輝いて
髪は豊かに肩に流れ，
ああ 輝やくように美しい。

紅色(くれない)はバラよりも
色白なのはユリよりも
何ものよりも姿よい，
いつでも君は，僕の自慢。

21．天秤棒に心をかけて
ソプラノ独唱

天秤棒に二つの心
かけてみればゆれ動く，
気ままな恋か，つつしみかと。
けれど私は目の前のをとって
首をくびきに差しのべる，
くびきにつながれて幸せなのさ。

22．すばらしい時節じゃないか
合 唱

すばらしい時節じゃないか
ほら 娘たち
さあ いっしょに楽しくやろうよ
そこの若いお人たち。

バリトン独唱

おお
全身が燃えるようだ
乙女への恋心に，いまや
全身が燃えたつようだ。
始まったばかりのこの恋なのだ
死ぬほどの。

女声合唱

私が元気になるのは
恋の約束をもらったとき
私がしおれてしまうのは
恋の心を拒まれたとき。

ソプラノ独唱と児童合唱

おお……

Coro

Tempore brumali
vir patiens,
animo vernali
lasciviens.

Oh oh .....

Coro

Mea mecum ludit
virginitas,
mea me detrudit
simplicitas.

Solo (Soprani), Ragazzi

Oh oh .....

Coro

Veni, domicella
cum gaudio,
veni, veni, pulchra,
iam pereo.

Solo (Soprani, Baritono), Ragazzi, Coro

Oh oh .....

23. DULCISSIME
Solo-Soprani

Dulcissime,
totam tibi subdo me!

BLANZIFLOR ET HELENA

24. AVE FORMOSISSIMA
Coro

Ave formosissima,
gemma pretiosa,
ave decus virginum,
virgo gloriosa,
ave mundi luminar,
ave mundi rosa,
Blanziflor et Helena,
Venus generosa!

FORTUNA IMPERATRIX MUNDI

25. O FORTUNA
Coro

O Fortuna,
velut Luna
statu variabilis,

合 唱

寒さきびしい時節には
男はじっとがまんする。
生命よみがえる春は
思いっきり楽しむのさ。

おお……

女声合唱

私 からかわれるんだよ
生娘だからって
私 のけものにされるの
うぶだからって。

ソプラノ独唱と児童合唱

おお……

合 唱

さあ かわいい娘さん
喜んで，とんでおいで。
ほら，おいでよおいでかわいい子。
僕はすっかりまいってるんだよ。

ソプラノ・バリトン独唱，児童合唱，合唱

おお……

23．いとしい人よ
ソプラノ独唱

いとしい人よ
私のすべてはあなたのもの！

ブランチフロールとヘレナ

24．たたえよ
合 唱

讃えよ，最も美わしきもの
貴き宝
讃えよ，美わしき乙女
誇り高き処女を。
讃えよ，この世の光
讃えよ，この世のバラを。
ブランツィフロールとヘレナ
気高きヴィーナスよ。

運命の女神，この世の支配者なる

25．おお運命の女神よ
合 唱

おお運命の女神よ
ちょうど月のように
その姿を変えてゆく。(以下1番と同じ)

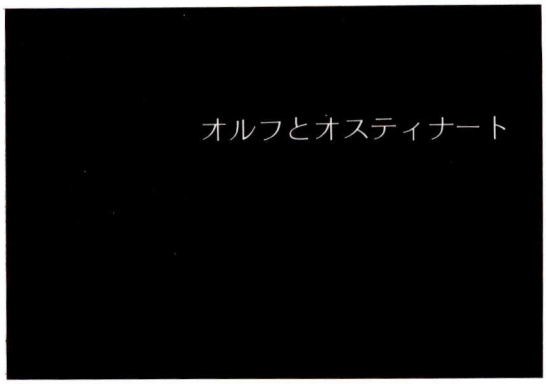
(訳 ソプラノ・島田つゆ)

●オルフとはいったい何者か？

カール・オルフ（1895～）は、20世紀の作曲家でありながら、その音楽史上に占める位置は一風変わっている。たいがいの音楽史の書物をひもといてみても、オルフについてはほとんど触れられていないか、触れられていても補足的な説明にとどまっている。これは、オルフが、今世紀のさまざまな作曲家のいずれの方法論的潮流にも属さず、彼独自の作風を創り上げた異端的存在であるからであろう。

オルフの作品は、ほとんど劇場のための音楽に限られている。もちろん、各種の純器楽作品も習作時代には書いたが、1937年に代表作「カルミナ・ブラーナ Carmina Burana」を発表した42歳のころに、それまでに作曲した作品を出版されていたものも含めて全部破棄してしまった。そのころまでの作品に見いだされるドビュッシーをはじめとした先人の影響を考えると、彼にとって「カルミナ・ブラーナ」は、初めて個性的・独創的なものとして自ら確信を得たものであったのだろう。それ以後、オルフは舞台形式を伴った作品を続々と発表していく。オペラとして「お月さま Der Mond」「賢い女 Die Kluge」「ベルナワリン Bernawerin」「アンティゴーネ Antigone」「アステュテュリ Astutuli」また舞台形式カンタータとして「カトゥーリ・カルミナ Catulli Carmina」「アフロディーテの勝利 Trionfo di Afrodite」 それにシェークスピアの「真夏の夜の夢」のための音楽、さらに「アンティゴーネ」の姉妹編として「エディプス Oedipus」「アリアンナ Arianna」などの近代的編曲や、音楽教育用のテキスト「シュールベルク Schulwerk」 の完成など、今日でも精力的に活躍している。

「私にとっては、フーガやソナタといった純音楽を書くことは不可能である。それは、そういった形式の可能性は、すべて18、19世紀に使い果たされてしまった。劇場音楽こそ、いまだ開拓されざる世界であり、そこに可能性を見いだすことができる」という彼の言葉は、彼がなぜ劇場音楽ばかりを書き続けているのかという最も明快な解説であろう。



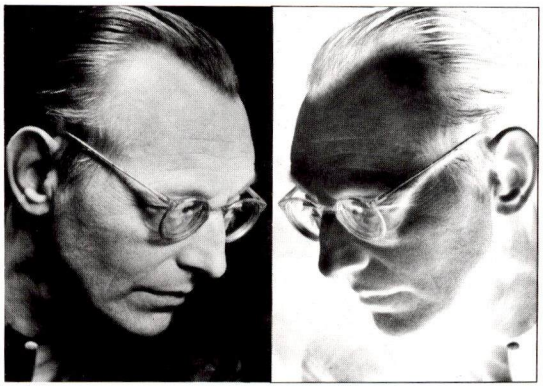
●なぜ、アルカイックな題材を取り上げるのか？

オルフの舞台作品の題材は、概して中世及び古代（ギリシャ・ローマ時代）のものに限定されている。前者の代表例が「カルミナ・ブラーナ」であり、後者のそれは「カトゥーリ・カルミナ」「アフロディーテの勝利」「アンティゴーネ」などである。彼は、なぜこのようなアルカイック（古風な、古代の）な題材ばかりを追求するのであろうか？

彼は言う。「私が古臭い素材や、現代では、つまらない、新鮮味がないとかたづけられてしまう物語や伝説を選び出しているのはなぜですか？といった質問を受けるのだが、私自身、それらをいっこうに古臭いものとは感じていない。むしろ、現代の人々にとって最も価値あるものだと思う。貴重なものの中に、ときには隠されてしまっていても、その精神的な力は、どこかで息づいているものである。私の関心は、実はその精神的リアリティをいかにして表現して、現在の聴衆に提供するかである。そういった精神的態度を一人でも多くの人々に伝えたいために、私は舞台のための作品を書くのである。」

●オルフの作品の特徴は？

オルフの作品で最も重要な役割を担う要素は、リズムである。彼のすべての作品に共通して考えられるのは、常に複雑なリズムを回避していることである。彼



は、常に明確な割りきれる「拍」の上に、その音楽の原動力となるエネルギーを衝撃的なリズムによって産み出す。しかし、それはストラヴィンスキーのもののような、計量的な微妙な差異による音楽効果をもたらすのではなく、より本質的に素朴であって、彼の音楽における根源的な中心をなしている。リズムこそ彼の音楽のすべてであって、和声も旋律も、その二次的副産物にすぎないのである。

オルフの作品においては、ロマン派的な旋律美というものは、ほとんど明確な形をとっては表れず、グレゴリアン・チャントや彼の故郷のバイエルン地方の民謡に似たものが、かろうじて旋律らしきものを構成しているだけである。その特徴は、簡明であって素朴であり、リズムを母体としたところから生まれた音の連続であると言えよう。このことは明らかに、明澄さと透徹した形式感をもたらし、リズム的な構造が強調されることを助けているのである。

オルフは、リズムの明確化のためには、あらゆるものを犠牲にする。よって彼の作品では、ドビュッシーなどが好んで用いた全音音階や古典派作曲家が完成した対位法の使用は、全く排除されており、ワグナーやブルックナーが多用した半音階使用による頻繁な転調も行われない。彼の作品の調性は、非常に明快であり、管弦楽編成は大規模ではあるが、その管弦楽的手法は、一世代前のラベルやR.シュトラウスが到達した精緻さとは全く逆の単純なものである。だが、その管弦楽的手法によって生み出されるダイナミズムは、強烈な生命力を保持しているのである。

彼の管弦楽は、アフリカやジャワの合奏音楽を思い出させるが、オルフは、「アフリカ土人の踊りのほうが、賢明に考案された新古典派的交響楽よりずっと純粋であり、ずっと表現の力を持つ」と言っている。

和声構成の特徴として挙げられるのは、最も単純な和音、すなわち三和音に基礎をおいたところから出発していることである。そして主音または主三和音を中心的に取り扱うことによって調性を強烈に保持するのであり、その和音結合は、機能和声に習慣づけられてきた我々に、新鮮な響きをもたらすのである。

●オスティナート(Ostinato)って何？

オスティナートとは、日本語にすれば固執(執拗)、反復とでも訳されるであろう。つまり、単純な主題が、何度も繰り返されることを意味し、音楽用語上は「オスティナート」という原語のまま用いられる。

オルフの音楽の共通した構成には一つの原理がある。それは、従来の音楽構成の中心である主題中心理念の発展に完全に対立するところのものである。すなわち、動機、節、主題がなんら変化することなくオスティナートされる過程における音楽的効果は、聴衆の心に現代音楽の他の傾向には決して存在しない、全く異なった衝撃的世界を提供しているのである。

オルフの音楽は、以上の基本的諸要素を駆使して、彼の音楽における新鮮さと、生々しい世界を求め、音楽の最も根源的な本質に近ずこうと努力しているのである。これこそオルフが現代音楽に占める独自の存在理由であろう。

●「トリオンフィ」三部作とは？

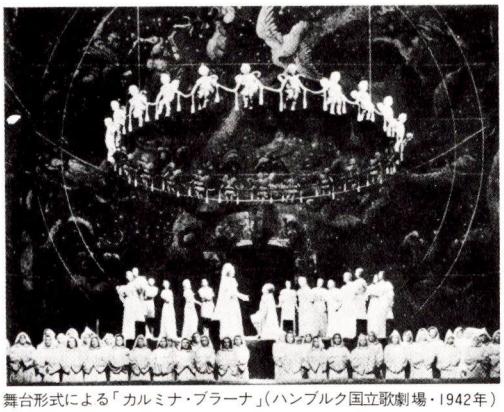
「カルミナ・ブラーナ」「カトゥーリ・カルミナ」「アフロディーテの勝利」の三つをまとめて「トリオンフィ」三部作と称している。これらはまとまって三部作となるように始めから企画されたのではない。「アフ

ロディーテの勝利」が成立してのち、これをまとめて「トリオンフィ」という名を冠したのにすぎない。だが、この三部作は、共通の一つの主題で統一されている。「カルミナ・ブラーナ」では、創造力の源として、また「カトゥーリ・カルミナ」では理性より強い熱情として、さらに古代の結婚の祝典を扱った「アフロディーテの勝利」では根源的な生殖の力として、それぞれ違った形で現れるが、それはいずれも愛の勝利（トリオンフィ）である。しかし、新しい力を得ようとするその源は、近代の恋愛ではなく、アフロディーテによる人間の解放なのである。

これらは始めから統一されたイデーによって作り上げられたというものではない。だが、この三部作を合わせて観察するとき、ゆき詰まったかに見える20世紀の音楽に、全く新しい表現の世界と独創的な音響様式を創り出したオルフの才能には、いまさらながら驚嘆せざるを得ないのである。

「カルミナ・ブラーナ」(1936～37年作曲）とは「ボイエルン詩歌集」という意味で、19世紀初頭(1803年)に、ミュンヘンからインスブルックに向かう街道の途中にあるベネディックト・ボイエルン修道院で発見された古い手写本である。この写本には、中世の詩や世俗歌曲が200曲ほど収められているが、教訓詩、諷刺詩、恋愛詩、酒の歌、賭事の歌など、中世の放浪学徒、流浪僧、遍歴楽人などが彼らの生活を詩や歌に歌い上げたものが中心となっており、言葉もしたがって、中世ラテン語のほかに、中世高地ドイツ語、その他さまざまである。オルフの「カルミナ・ブラーナ」は、こうした中世の歌謡集から、主題の点で春、酒、それに愛に関係ある曲を選び、それを三部にまとめて構成し、それに運命の女神を歌う歌をつけ加えて、導入と結尾を形づくり、世俗カンタータという形の大曲を作り上げたものである。

「カトゥーリ・カルミナ」(1943）は、ローマ帝国末期の抒情詩人カトゥールスの恋愛詩をもとに、オルフ自身がラテン語で歌詞を書き加えて作曲したもので、執政官の妻クロディアに対するカトゥールスの激しい



舞台形式による「カルミナ・ブラーナ」(ハンブルク国立歌劇場・1942年)

恋情を題材にしている。序幕・1幕～3幕・終幕から成っているが、序幕では、若い男女たちが互いに愛の言葉を呼びかけ合い、しだいに大胆な愛撫に移ってゆく。彼らは永遠の愛をちかい合うが、これを聴いた老人は憤然とあざ笑って、「カトゥーリ・カルミナ」を聴けと言い、若者たちも「ではそれを聴こう」というので劇中劇が始まる。これは3幕にわたる愛の破局の物語である。しかし、この劇の教訓は若者たちに何の感動も与えず、終幕では、再び「永遠に! (Eis aiona!)」を繰り返し始め、老人たちは失望する。

本日演奏するのは、オルフ自身が作詞した序幕の部分であるが、性的な言葉が直接的な形をとって使われており、これが音楽にいっそう衝撃的な力を与えていると思われる。

「アフロディーテの勝利」(1950）は、カトゥールスのほか、サッフォー（前7世紀の女流詩人）とエウリピデス(前480～407)の詩からとられており、古代の結婚への祝いを全7部の静的な舞台劇にまとめている。劇の経過は非常に象徴的に扱われているが、本日演奏するのは、第4部の部分で、婚礼の神ヒュメナイオスへの祈り、およびその讃歌である。

なお、本来「カトゥーリ・カルミナ」は、4台のピアノと打楽器群（4台のティンパニー、2台のグロッケンシュピールetc……）によって、また、「アフロディーテの勝利」は、大編成のオーケストラによって、



オルフ 自筆の「カルミナ・ブラーナ」スコア

各々演奏されるのであるが、本日の演奏では、これらを共に2台のピアノ用に編曲して、打楽器群を加えている（「カルミナ・ブラーナ」は、オリジナルの編成である）。

●なぜ、鯨がオルフを上演するか？

現代音楽は、今や聴衆とのコミュニケーションを喪失して孤立した存在と化している。作曲者は、自己の作曲技法を縦横に駆使して作品を作る。それは、まるで一つの細密画を見るようであり、極度に人工的な面を持っている。一方、聴衆は、出来上った作品に対して、通常の音楽的感性では理解することのできない何かを感じる。

現代音楽は、いまや混迷した状態を示しており、その作品は、作曲家の閉塞的世界の内側にのみ存在しているのである。音楽作品が、現在ほど同時代の聴衆を心をつかんでいない時期もないであろう。

これは、音楽だけでなく芸術一般にも通じることであろうが、如何に音楽が、専門化され精密な形態をとろうとも、人間の心を動かすものは、意外に、もっと単純なものではないかということだ。つまり、いかに作品が、機械的に計算された精緻さで創り上げられていても、その作品自体に本質的な生命力とでもいうべきものが備わっていない限り、聴衆の心をつかみきれないということである。この点を見過ごして来たことに、現代音楽が、聴衆から離反した最も本質的原因があると思われるのであり、また、それだからこそ、オルフが一貫した創作態度によって、現代音楽の主流に対して挑戦してきたことを、高く評価すべき時期なのである。もう一度、彼の作品のもつ単純明快なダイナミズムを見直し、その原始的衝撃力に触れるべきではなかろうか。今こそ、オルフを再認識する時である。

こよいの演奏会が、聴衆の皆さん自身の“音楽とは、一体どうあるべきか？”という最も本質的な問いかけを始める契機となり、願わくばアマチュワの側からのオスティナートによる音楽復興ののろしとならんことを……。

（ベース・白石勝久　記）

芥川也寸志のモノローグ

１カ月先に演奏会を控えて合宿を行った一夜、指揮者の芥川先生が、団員を前にしてしみじみと語られた人生と音楽。こよい、私たちの演奏会を聴きに来てくださった皆様方に、本当に感動する音楽とは何か、アマチュアが音楽をやることにどんな意味があるかを考えていただくきっかけとなり、また今夜の演奏会がどういう意図で行われたかを理解していただく一助ともなればという願いをこめて、このページをお贈りいたします。

●よろこびは悲しみのかなたに

プログラムにこの話がのることを意識しちゃうと話がつまらなくなるので、思いつくままに言いますけれど……。一人一人みんな違う。生まれ育った環境も違うし、好みも性質も、ぜんぶ違う。だけど、一人一人にみんな、自分にとっての真実というものがあって、ちょっとキザっぽくなるけれど、とにかくその大事なものを一生かかって追求していくことが、人生のおもしろさだと僕は思うんですよ。

僕の父は、僕が2歳のときに自殺したんですよ。でも覚えてないんです。2歳になってから2週間くらいしかたってないときでね。だから、母親しか知らないわけでしょ。僕はね、唯心論者じゃない。唯物論者のつもりなんだけど、唯物的に霊魂とか未来の世界があるような気がしているんです。これは、子供のときの生い立ちと関係していると思うの。僕の家は、本当に暗かったんです。それで、お母さんはもうじき死ぬと思いつめていた。子供心に、死んじゃいや、死んじゃいやって思っていた。ただそう思うんじゃなく、なにかにつけ、例えば、台所でお茶わんがわれると、アッ、これはお母さんが死ぬ前兆じゃないかとか、火鉢に炭を入れたとき、パチッとはねると、アッ、お母さんが死ぬんじゃないか、っていうようにね。ずっとそう思ってきた。そして、大人になって僕に子供ができても、まだ母は生きている。ああよかったな、でも死なないでほしい。娘が成長して大学へ行くようになっても、まだ元気で僕といっしょに暮らしている。ああよかったな、死なないで、と思ったんだけど、でも、もう8年くらい前に、心臓でポックリ死んだんですよ。死なれてみると、ものすごく悲しい。でも葬式もしなければならないし、子供たちの手前、がんばらなきゃいけないと思ってね、一生けんめい幸せだったことを思い出そうとした。今死んでもいいと思ったほど幸せにつつまれたときとか、非常に感激したときのことを思い出すんだけど、そんなものは、ものの数じゃないんだよ。

要するに、よろこびとか楽しみといったものは、そのときはどんなに大きくても、あっというまに通り過ぎていくものなの。ところが、悲しみとかつらさとか憎しみのような感情は、非常に深いんですよ。これは急にたち去っていかないの。日がたつにつれて深みに入っていくような気がしてね。そのとき思ったんだよ。簡単に言えば、よろこびは悲しみのかなたにしかないってことをね。

人間は生きている間は幸せでありたいし、よろこびに満ちあふれた生活を送りたいけれど、あっというまに消えてなくなってゆくものばかりを追いかける人生ってのは、とても浅薄だなって気がしたわけよ。悲しみを知らない人はよろこびを知りえない、と僕は思うよ。人生は悲しみとともにあると思えば、隣の人のちょっとした親切も、全身に広がるよろこびになりますよ。だけど大きな幸せだけを目ざしていたら、そんなものは目に入らない。ちょっとした小さなことが体中



に広がっていくような種類のよろこびこそ、本当に人間的なよろこびだと思うんだよ。

●無感動なプロの演奏より感動的な鯨を！

で、音楽も同じだと思うようになったんです。例えば、ベルリン・フィルハーモニーはリっぱなオーケストラだ。だけどね、東京にもたくさんオーケストラがあるでしょ。それでオーケストラの団員に、あなたたち、どんなオーケストラになりたいかって聞くと、ベルリン・フィルみたいになりたいとか、ウィーン・フィルみたいになりたいとか、ニューヨーク・フィルみたいになりたいっていう。バカだと思うね。永久になれないですよ。それだったら、例えばN響なら、ベルリン・フィルでは聞けないけど、N響に行けば聞けるってものを目ざすべきですよ。

だからそういう意味で、鯨は、鯨でしか聞けないものを目ざすべきですよ。ただ音楽をやって、きれいな音を出して、ああきれいだなあ、というもんじゃ音楽はない、と僕は思いますね。

先日ある番組で、芸術は、つまり感動は高価であるべしという説に対して、ゲストとして反論してほしいっていうんです。山梨県でミレーの絵を買った。2枚で2億円するそうですけど、そういうものに高いお金を出す、つまり物ばなれの世の中が始まって、今までの経済学が芸術や精神的な活動を扱ってこなかったことを問題にしようという主旨なのですが、僕はね、ミレーの「落ち穂拾い」は、それは確かにすばらしいと思いますよ。でも、2億円というのは絵の内容に対する値段ではなく、つまり、この絵から受ける感動の値段ではなく、この絵に付随するもの、例えばこっとう的価値、と言って悪ければ、希少価値に対する値段も含まれているのでね。僕は、感動的な絵で、もっと安いものは、山ほどあると思いますね。

ですから、ベルリン・フィルは高いけれど、すばらしいベルリン・フィルもあれば、つまらないベルリン・フィルもある。無感動なベルリン・フィルより、感動的な鯨のほうがはるかにいい、ということは大いにありえることであってね。非常に可能性の高い話であって、だから、たとえハーモニカ一丁でも、それが感動的なものであればすばらしいことなので、僕は感動の値段は安くあるべしとは言わないけれど、感動するかしないかは、値段が高いとか安いとかには関係ないことだと思いますね。

●現代の音楽はどこにある？

それで音楽の話だけど、音楽は人間の心と心をつなぐものだと僕は思っています。それができないものは音楽じゃない。たとえどんなに複雑なものであっても、どんなに値段が高くても、それは音楽ではない。少し極端な言い方をすると、現代にはほとんど芸術的な音楽がなくなっちゃったって気がするのです。

聖書に、「はじめに言葉ありき」っていうのがあるでしょ。この意味はね、神様は、言葉によってお互いにコミュニケーションを図ることができるものとして人間をお造りになりました、って意味だろうと思うんだよ。非常に素朴に言えばね。だから人間は、お互いに言葉によって自分の意志を伝え、あるいは感情を伝え合うことができる。人間は、一人では生きていけな

い。必ずだれかに寄りかかり、配偶者を求め、友達を求め、社会を求めて生きている。一人一人の人間は、非常に弱いものですよ。

これと同じように、「はじめに音楽ありき」と言ってもいいわけです。音楽っていうのは、お互いに、私はこんなにうれしいんです、こんなに悲しいんです、ということを表すもので、悲しくてじっとしていられないときに歌うのが悲しみの歌よね。うれしいときには、うれしい、うれしいと踊り出し、思わず歌が出る。これが音楽の本質ですよ。

ところが、現代音楽っていうものは、非常に難しくって、一般の市民にとっては、まったく関係ないものになってるんですね。ちょうど学生運動の革マルとか中革とか、一人一人は純真で情熱に燃えているんだろうけど、上野駅なんかで「われわれワァー……なんとかデェー……」なんて叫んでいても、だれも聴いてないよ。ただの一人も。みんな知らん顔して見向きもしないよ。現代音楽ってのは、まさしくあれなんですよ、今や。なにが悪いかって、これは作曲家が悪い。音楽家がおおぜいの人を相手にしなくなり、専門家の中の専門家の中の、また専門家みたいのばかりめざして、お互いに競争しているから。

言葉っていうのはね、これを分解しちゃって、例えば、こっちで「コ」って言って、向こうで「ト」って言って、後の方で「バ」って言うとしたら、これはもう言葉にはならないでしょ。これでは人間の感情や意志を伝えることができない。本来の「コトバ」という機能を失っている。

音楽も、「コ」「ト」「バ」みたいにいくらでも分解できますからね。現代音楽ってのは、分解に分解を重ねて、僕に言わせれば、極論すれば、もう「はじめに音楽ありき」っていうような音楽じゃなくなっているんですよ。

●カラヤン、イ・ムジチは古典の現代訳

文学の世界はそうじゃないですね。例えば、松本清張さんなんかは、いつも所得番付で上位にいるでしょ一般大衆も現代的なものを望んでいるんですよね。平家物語を読みたい人もいるだろうけど、一般的には現代的な作品を読みたい人のほうが当然多いんですね。ところが音楽の世界、といってもクラシックの世界では、そうじゃないでしょ。ベートーベンとかブラームスなんかが人気がある。ポピュラー名曲全集なんかはみんな「未完成」とか「運命」とか「ジュピター」「悲愴」なんてものばかりで、現代作品は入ってないでしょ。言ってみれば、源氏物語や平家物語ばかりで、松本清張さんの小説は入ってないっていうのと同じで、これはおかしなことですよね。

だから、カラヤンが偉いとすれば、あの人は「祇園精舎の鐘の声」という大昔のものを、現代人の好みに合わせて現代語訳をしているところにあると思うんです。非常にすばらしい現代語訳をするわけね。ビバルディの「四季」のレコードが毎年ベスト・セラーになるけれど、あれはイ・ムジチのが売れて、それにひきずられてほかの演奏のも売れている。圧倒的にイ・ムジチが売れているんですよ。イ・ムジチは、日本に来たから、聴いた人はわかると思うけど、あの演奏はバロックなんてもんじゃない。ものすごくクリアな、メカニックな、現代的な演奏です。つまりみんな、私たちの現代的な感覚にフィットする音楽を求めていると思うんですよ。ところが、作曲家はそういう音楽をつくらない。だからその代用品として、カラヤン先生の現代的なベートベンやブラームスを聴き、イ・ムジチの非常に現代的な演奏を楽しんでいるんじゃないか、と僕は思うんです。

●オスティナートばんざい！

今度の演奏会で取り上げるカール・オルフですがね。この人は、シェーンベルクとか、ドビュッシーとか、

ラベルほど大きな作曲家じゃないですよ。でも、あの人がやっていることっていうのは、なんていうか、涙ぐましいんだよ。僕から見ると、こういう複雑な現代にあって「ドンチャッ、ドンチャッ、ドンチャッ、ドンチャッ」ってやっている作曲家ってのは、本当に涙ぐましい。

現代音楽がみんなから離れていったのは、一つはポピュラー音楽がとって代わったのね。ポピュラー音楽は何かっていえば、歌とリズムですよ。ポピュラーのコンサートに行ってごらんなさい。30分くらい同じリズムが続くでしょ。リズムが30分間人を酔わすわけよ。現代音楽が大衆から離れたのは、まず第一にリズムがなくなったからです。その中でただ一つ残っているのが、オスティナートなんですね。今度やる「カルミナ・ブラーナ」も、「カトゥーリ・カルミナ」も、「アフロディーテの勝利」も、オスティナートです。だから、今度の演奏会は、いってみれば、「オスティナートばんざい!」なんだよね。

演奏会のプログラムってのはね、その演奏団体の意志を表明するものなんだよ。鯨が何ヵ月もかけて練習をやり、演奏会を開く。それは、鯨はこういうことをやります、っていう思想を表明することなんですよ。人の心が伝わらなくなったこういう時代に、もう一度音楽を取り戻そうっていうか、ここに音楽ありっていうこと、鯨は音楽やっているぞっていうことを、この演奏会で強烈に訴えたいんです。

今、ほうぼうで「カルミナ・ブラーナ」をやるっていう話があるけれど、これは、自分でも気がつかないうちに、そういう魅力にひかれているってことだと思いますね。だから僕は、もっと、オスティナートのかたまりみたいな大傑作ができないといけないと思っているんだけど、僕もやっているんだけれど、これがなかなかね、口ではうまいこと言うんだけど、実際にやってみると、なかなかうまくいかないんですよ。

●アマチュアこそ本当の音楽を

今度の演奏会のもう一つの意味ですが、これは、アマチュアリズムですね。音楽は、本来、アマチュアがやるのが本当だと僕は思う。音楽の本当の姿がアマチュアにある。もちろん、プロの音楽は否定しませんよ。だけど、本当にすばらしいものでなきゃ、僕はプロとは認めない。音楽の本来の姿ってのは、プレイ・ミュージックですよ。心から音楽を楽しむ、真剣になって、感動的な音楽をつくりあげていくっていうのは、アマチュアのものだと思う。

だから、ここには本当の音楽がありますよ、っていうのを演奏会でやりたいんですよ。「カルミナ・ブラーナ」がすんでからも、鯨は演奏活動を続けていくだろうと思いますが、自分たちがめざしていく道を、確信をもって歩んでもらいたいですね。これは生きがいの問題だと思いますが、演奏会のときに、本当に生きがいを自覚することがなければ、なんのためにやるのかって言いたい。

生きていく環境がきびしくなると、人間はとかくあたりさわりのない暮らし方をするようになる。環境に対するたたかいを忘れると、人間は生きがいを失います。それじゃ、なんのために生きているのかわからないよ。人間は、精神の動物だからね。生きがいを求める動物だからね。すばらしい芸術にふれて感動するってことは、そのときに、自分はそういう精神をもった人間なんだっていうすばらしさをとり戻したときに生まれるものですよ。オルフだってそうでしょ。芸術作品っていうのは、ものすごい精神の燃焼の結果生まれるものだよ。演奏する人は、それと同じ状態になって、聴衆に働きかけるところに意味があるんです。

これが僕のいう生きがいです。この中に、始めに言った、一人一人の真実、なにかキラキラしたもの、それを探し求めるというのが、鯨の演奏会であってほしいと思いますね。

10月22日・鹿島ハイツにて

(文責 アルト・船戸牧子)

座談会　　鯨あれこれ

出席者　渡辺　直（ベース・創立メンバー）
柳島久枝（ソプラノ・'68年入団）
中里雪枝（アルト・'68年入団）
板橋　稔（ベース・'68年入団）
鶴谷文彦（テノール・'69年入団）
中村　健（常任指揮者・72年就任）

司会　森　幸一（ベース・'69年入団）

司会：鯨も創立10周年になるわけですが、今日は比較的古い団員とそれに中村先生に集まっていただいて、鯨についての思い出とか、日ごろ感じていることなどを気軽に話していただきたいと思います。

鯨は、1967年12月24日、クリスマスイヴの日に創立されたわけですが、そのへんのところから始めましょうか。

渡辺：そうね、創立のメンバーは20人ちょっとくらいだったかな。アマチュアこそが本当に感動的な演奏ができるという芥川先生の考えに共鳴した者が集まって誕生したわけだけど、そのころは非常にでっかい夢を持っていたね。単なる“お楽しみ”の合唱団じゃなくて、“音楽運動体”というようなことを考えていたんだよ。つまり、あちこち演奏旅行をして回るとか、各地に、例えば浜松鯨だとか岡山鯨だとかを作って、年に一度は各地から集まって合同演奏会を開く、というようなことも考えてね。

司会：“鯨”というユニークな名前をつけたのはどうしてですか。

渡辺：大海原をゆうゆうと泳ぎ回るというスケールの大きなイメージがあるでしょ。それに親しみやすくて覚えやすいから……。名付け親はもちろん芥川先生ですよ。

板橋：大声でどなってばかりいるからホエールなんだという説もあるようだけど……(笑)。

柳島：私は創立２回目の練習日から参加しているんですけど初めはすごい勢いだったわね。あっというまに300人近くになって、いすに座れない人がずいぶんいたもの。でも、先生を近くで見られるから、っていうような何をしに来ているのかわからないような人もいたようね。

板橋：団員の出入りが激しくてね、まあまあ落ちついて来たのは「四季」のころじゃなかったかな。

中里：「四季」は暗譜だったから、ちゃんと練習しなくちゃついていけなかったし、自然にまとまってきたわね。

中村：「四季」は、現代語訳で舞台形式でやったんだよね。

渡辺：原語じゃ聴いてても意味がわかんないし、といって既成の訳は「かくのたまえり」なんていう文語調でなおわかんない(笑)。だから現代語に訳し直そうということになったんだけど、これがまたたいへんだったなあ。

板橋：まず何通りかの訳を手分けして作って、最後には芥川先生も交えて歌詞を考えたんだけど、音符と日本語のイントネーションをマッチさせるのが難しくてね。ああでもない、こうでもないと考えているうちにとうとう徹夜になったね。

中里：でもいっしょうけんめいやったからかしら、いちばん印象に残っている演奏会だわ。

司会：「四季」に続いて、「メサイア」「天地創造」と三大オラトリオを舞台形式でやって、このころが鯨初期の一つの頂点だったと思いますが……。

鶴谷：「カルミナ・ブラーナ」とか「レクイエム」(フォーレ、モーツァルト)もなかなか好評だったよ。でもこのころからがたいへんな時代だったね。

板橋：芥川先生の辞任問題、それに続いて団員が50名以下に減って、僕は委員長だったんだけど本当につらかったね。

司会：そういうたいへんなころに中村先生をお迎えしたわけですけど、鯨の第一印象はどうでした？

中村：鯨との出会いは「四季」の演奏会を聴きに行ったときが最初だったから、第一印象は悪くなかった…(笑)。練習に来て感じたのは、団としてはだめになってきているときだけど、残っている人たちの中にエネルギッシュなものを感じたな。これだけは信頼できた、というよりそれしかなかった……(笑)。とにかくヘタなのね。だから選曲は任せてもらって、大曲主義はさておいて小曲をきっちり歌うことによってうまくしていこうと考えたわけ。

鶴谷：そういえば、各パートから一人ずつ出てカルテットで歌わせられたりしたね。ずいぶん恥をかいたよなあ。

柳島：並び方も、パートごとじゃなくてバラバラに座って、よく練習したわね。周りがみんな違うパートの人で人に頼れないから、あれでずいぶん力がついたと思うわ。

司会：健ちゃんも最初はずいぶん遠慮して指揮していたように思うんだけど……。

中村：そりゃ、年上の人ばっかりだったから……。指揮を勉強し始めて半年くらいの時だったしね。でも、学校で習ったことが本当にそのとおりなんだよ。だめですよと言われた振り方をすれば、やっぱりみんなついてこない。いいと言われたとおり振れば、音程までよくなってくる。そういう意味でこわかったね。

鶴谷：鯨が健ちゃんを育てたんだよ(笑)。

司会：健ちゃんは、他の合唱団ともいろいろつき合いがあ



るわけだけど、鯨の特徴はどういうところですか？

中村：いいことが悪いことか知らないけど、頭でっかちの人がいないんだね。いろんなこと知っていて口だけ達者な人っていうのが、たいていどこの合唱団にもいるもんだけど……。鯨の場合、ちょっと専門用語を使うと、みんな不思議そうな顔しているよ(笑)。どんな曲をやるときも、白紙の状態だったから、かえってやりやすかったけど、そろそろそういう人が出てきてもいいころかもしれないな。

司会：鯨の欠点は？

中村：ウーン、発想が乏しいことかな。音楽の面でも、運営の面でも、なにかにつけてね。

渡辺：僕は、運営やってる人間が歌がヘタなことだと思うね。あちこちかけずり回ったり、人の前でお説教したりすることを自己目的化しているようなところがあるよ。もちろん僕を含めての話だけど。やっぱり先頭に立つ人は歌もうまくなくちゃね……。

司会：鯨には、音大を出たようなレベルの高い人から楽譜が全然読めないような人までいるし、年齢の点から見ても、16歳の高校生から66歳の御年配の方まで、いろんな人が入ってきましたね。

板橋：延べ人数じゃ千人をはるかに越えているんじゃないかな。

渡辺：とにかく、うまくなろうということと、だれでも入団できますということは矛盾する要素なわけで、水準をどのへんにもっていくかが難しいね。

中里：でも最近入団する人は、音楽教育のせいかどうかわかんないけど、概して譜読みが早いみたいね。以前鯨でやったことのある曲を練習しても、昔ずいぶん苦労してやったところをなんなく歌っちゃうんだから、ガックリするようなうれしいような……(笑)。

柳島：そういう意味では鯨もレベルアップしてきてるのね。入団当初と比べてずいぶん声が出るようになった人もいるし。

板橋：ただ、定着率が悪いんだな。とくに女声の入れ替わりが激しい。このへんをなんとかしなくちゃね。といって男声もうまいのが残っているわけでもないけどね(笑)。

鶴谷：でも、これだけいろんな人がいるということは楽しいことだよ。会社だけでのつき合いじゃ得られないものがあるね。みんないい人たちですよ。

渡辺：そういえば、最近は山クジラ（山岳同好会）とか庭クジラ（テニス同好会）なんていうのができて、盛んに活動しているようだね。

中村：なかには合唱より、そっちの方に力を入れているんじゃないかと思われるような人もいるけど(笑)。

司会：団内結婚も最近ずいぶん多くなってきたね。

板橋：今までに13組かな。現在進行中で来年あたり、というのも3～4組あるようだけど……。

柳島：エッ、そんなにあるの(笑)。

鶴谷：不思議にソプラノとベース、アルトとテナーという組み合わせが多いね。ソプラノとベースというのは、練習中、目の合う位置にいるし、テナーとアルトは隣どうしだからかな？

中村：パートごとに共通する性格があるみたいだね。ソプラノははなやかだが浮気っぽいし、アルトはどちらかというと地味で落ち着いている。テナーは軽薄だが気がよいところがあるし、ベースはヌーボーとしていて無頓着(笑)。これがカップルの組み合わせと関係あるんじゃないかな。

司会：こういう話になってくると、がぜん盛り上がってくるんですが(笑)。では、最後に、鯨の代表である鶴谷さんに、これからの鯨の展望と抱負について語ってもらいましょう。

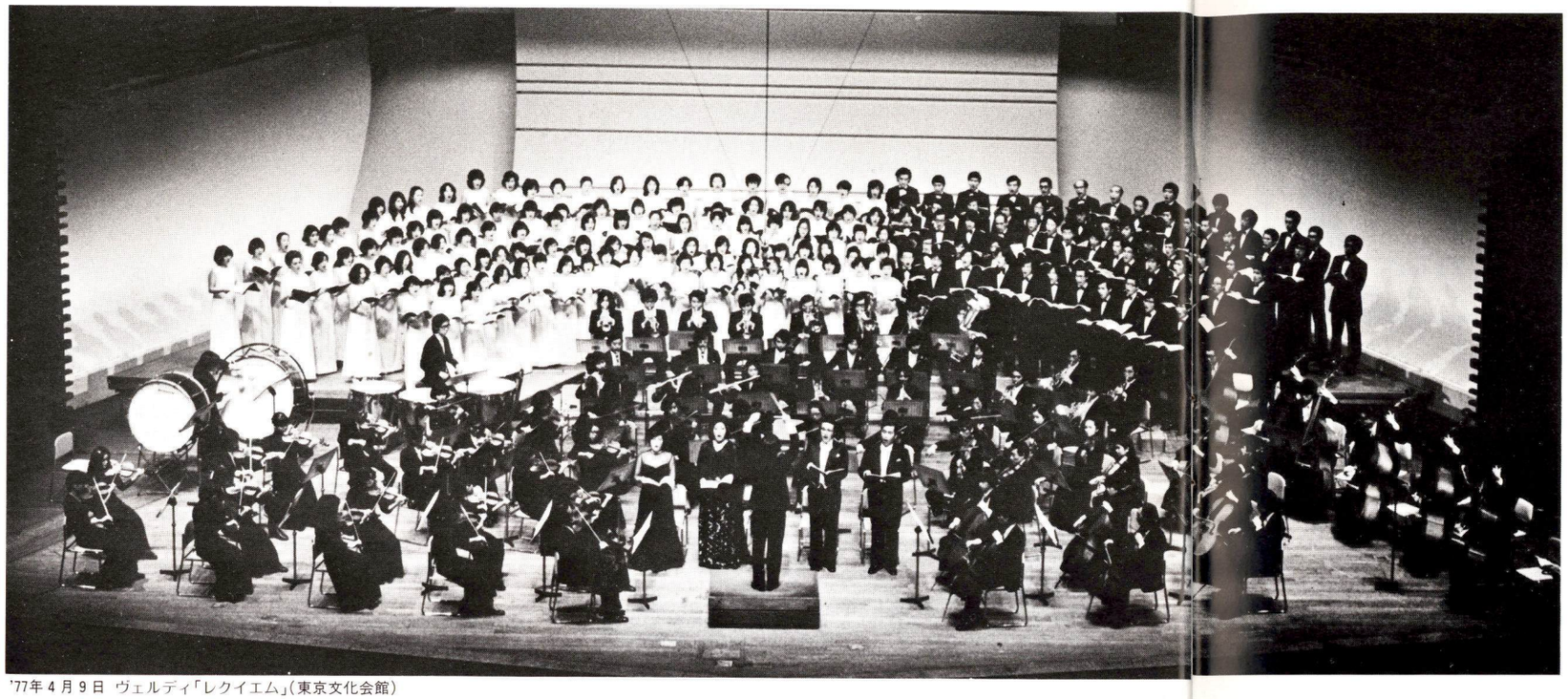
鶴谷：10周年以降の鯨について考えられることは、もう一度鯨の創立の原点に立ち戻ってみることが、必要じゃないかということですね。団員各自が常に、“鯨とは、いったいどうあるべきか？”ということを考え、鯨の可能性をあらゆる角度から多面的に探ってみる。こういう態度こそが必要ですね。単に演奏会を開いて自己満足するのではなく、例えば、合唱以外のバレエとか演劇とか他のさまざまな分野と協力して、新しい形の総合芸術を創り上げていくというようなこともやってみたいな。鯨でしか聴けない音楽、鯨でしかできない活動を追求して、鯨独自のユニークさを出していけたらと思います。

板橋：そのためには、僕ら古い連中が常に新鮮な気持ちで、新しい団員と協力していかなきゃね（一同うなずく）。

司会：本日は、みなさんどうもありがとうございました。

10月10日、渋谷ドミニコカトリック教会にて

（文責・森　幸一）



'77年4月9日 ヴェルディ「レクイエム」(東京文化会館)

合唱団 鯨10年のあゆみ

年月日	演奏会名	曲目	指揮	管弦楽・出演者	会場
'68・7・3	第1回定期演奏会 「くじらオペラを歌う」	「狩人の合唱」他	芥川也寸志	ピアノ　渡部　令子	虎の門ホール
7・30	TBSテレビ 「コンサート・コンサート」	7月3日演奏会より抜粋	芥川也寸志	ピアノ　渡部　令子	TBS
11・24	TBSテレビ 「新春コンサート」	ワグナー／タンホイザー「歌の殿堂」 ヴェルディ／アイーダ「勝利の行進」他	芥川也寸志	管弦楽　東京交響楽団	TBS
12・8	第2回定期演奏会 「ファミリー・コンサート」	「赤いサラファン」「フニクリフニクラ」他	芥川也寸志	ピアノ　渡部　令子	都市センターホール
12・9	東響第165回定期演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	ツデネク・コシュラー	管弦楽　東京交響楽団	東京文化会館
12・22	東響名曲シリーズ	ベートーヴェン／交響曲第九番	近衛　秀麿	管弦楽　東京交響楽団	東京文化会館
12・23 12・26	第3回定期演奏会 「新響・鯨第九特別演奏会」	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.常森　寿子　A.子安　順子 T.金谷　良三　B.蔵田　裕行	日比谷公会堂
'69・1・19	TBSテレビ 「コンサート・コンサート」	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　東響交響楽団	TBS
4・27	都立大学管弦楽団定期演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	小宮　徳文	管弦楽　都立大学管弦楽団	東京文化会館
5・28	第4回定期演奏会	ハイドン／オラトリオ「四季」(舞台形式)	芥川也寸志	管弦楽　東響交響楽団 S.安枝　雅子　T.金谷　良三 B.村本　和彦 (出演)吉田日出子・竹邑　類 東野　孝彦	日比谷公会堂
7・17	第5回定期演奏会 サマーコンサート「コーラスとオーケストラの夕べ」	「誰も知らない悲しさ」「ハレルヤコーラス」他	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 ピアノ　渡部　令子	渋谷公会堂
11・23	TBSテレビ出演	ヘンデル／オラトリオ「メサイヤ」より抜粋	芥川也寸志		TBS
12・21	第6回定期演奏会	ヘンデル／オラトリオ「メサイヤ」(舞台形式)	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.安枝　雅子　A.武藤　直子 T.金谷　良三　B.松尾　篤興	厚生年金会館

年月日	演奏会名	曲目	指揮	管弦楽・出演者	会場
'70・4・8	第7回定期演奏会　ポピュラーコンサート「鯨はるにうたう」	「ラ・ノビア」「白い恋人たち」他	芥川也寸志	ピアノ　渡部　令子	都市センターホール
7・1	第8回定期演奏会	ハイドン／オラトリオ「天地創造」(舞台形式)	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.鉄弥　恵子　T.金谷　良三 B.松尾　篤興 (出演)田村 智章・福島 晶子 面田 清志　他	渋谷公会堂
9・11	「スキーと音楽の夕べ」		芥川也寸志	ピアノ　渡部　令子	九段会館
11・25	東響第179回定期演奏会	オルフ／カルミナ・ブラーナ	芥川也寸志	管弦楽　東京交響楽団 S.小池　容子　T.丹羽　勝海 B.栗林　義信 東京混声合唱団 児童合唱　東京少年少女合唱隊	日比谷公会堂
12・6	TBSテレビ 「コンサート・コンサート」	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　東京交響楽団 S.佐野　順子　A.菊地　洋子 T.金谷　良三　B.田島　好一	TBS
12・7	東響第九特別演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　東京交響楽団	日比谷公会堂
12・16	東響第九特別演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	デビット・カッツ	管弦楽　東京交響楽団	日比谷公会堂
12・21 12・23	第9回定期演奏会 「新響・鯨第九特別演奏会」	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.佐野　順子　A.菊地　洋子 T.金谷　良三　B.田島　好一	共立講堂
'71・6・1	第10回定期演奏会	武満　徹／弦楽のためのレイクエム フォーレ／レイクエム モーツァルト／レクイエム	芥川也寸志 小林研一郎	管弦楽　新交響楽団 S.佐野　順子・常森　寿子 A.菊地　洋子　T.金谷　良三 B.芳野　靖夫	渋谷公会堂
10・10	TBSテレビ「秋のコンサート」	「愛の別れ」「南太平洋」他	芥川也寸志	管弦楽　東京交響楽団	TBS
10・19	第11回定期演奏会 「ファミリー・コンサート」	「白い恋人たち」「スオミの歌」他	芥川也寸志 小林研一郎	ピアノ　渡部　令子	共立講堂
12・12	ＯＢ交響楽団第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	小林研一郎	管弦楽　ＯＢ交響楽団	共立講堂
12・15 12・17	第12回定期演奏会 「新響・鯨第九特別演奏会」	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.大川　隆子　A.秋葉　京子 T.金谷　良三　B.田島　好一	日比谷公会堂

年月日	演奏会名	曲目	指揮	管弦楽・出演者	会場
'72・6・6	第13回定期演奏会	ブルックナー／テ・デウム ブルックナー／ミサ第三番	小林研一郎	管弦楽　新交響楽団 S.小池　容子　A.秋葉　京子 T.吉田　博久　B.平野　忠彦	日比谷公会堂
'72・12・17 12・19	第14回定期演奏会 「新響・鯨第九特別演奏会」	ベートーヴェン／交響曲第九番	小林研一郎	管弦楽　新交響楽団 S.常森　寿子　A.志村　年子 T.金谷　良三　B.原田　茂生	日比谷公会堂
'73・5・10	第15回定期演奏会	ベートーヴェン／荘厳ミサ	中村　健	ピアノ　小野 悦子・弥津 裕子 S.松本　泰子　A.中村　妙 T.保坂　博光　B.木川田　隆	渋谷公会堂
12・5	ノインテ・コール第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	熊谷　弘	管弦楽　東京交響楽団	中野サンプラザホール
12・12	第16回定期演奏会 「楽しいコーラス」	ハイドン／気をつけろ ハイドン／お留守居 コダーイ／リスト讃歌	中村　健	ピアノ　小野　悦子 B.桜井　直樹	農協ホール
12・19 12・21	新響・鯨　第九特別演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.常森　寿子・小池　容子 A.志村年子　T.金谷良三　B.平野忠彦	中野サンプラザホール
'74・1・14	上智管弦楽団第17回定期演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	汐沢　安彦	管弦楽　上智管弦楽団	東京文化会館
1・22	CMA合唱団第25回定期演奏会	ベートーヴェン／荘厳ミサ	原田　稔	管弦楽　読売日本交響楽団	東京文化会館
3・3	法政大学交響楽団定期演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	福井　功	管弦楽　法政大学交響楽団	東京文化会館
7・9	「パイオニア・イヴニング・シンフォニー」	ヴェルディ／テ・デウム	熊谷　弘	管弦楽　東京フィルハーモニー交響楽団	日比谷公会堂
10・14	第17回定期演奏会	メンデルスゾーン／未完成オラトリオ「クリストウス」 ヘルマンシュレーダー／マニフィカート　ヘルマンシュレーダー／ミサ・サルモディカ　ヴェルディ／テ・デウム	中村　健	管弦楽　新交響楽団 B.桜井　直樹　他	日比谷公会堂
11・22	立教大学交響楽団第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	磯貝　猛	管弦楽　立教大学交響楽団	東京カテドラル教会
12・8	クラシックスフィル第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	熊谷　弘	管弦楽　クラシックス・フィルハーモニー	日比谷公会堂
12・22	CMA合唱団 創立25周年記念演奏会	ヘンデル／オラトリオ「メサイヤ」	原田　稔	管弦楽　読売日本交響楽団	東京文化会館
12・25	ＯＢ交響楽団第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	小林研一郎	管弦楽　ＯＢ交響楽団	共立講堂
'75・4・23	新響・鯨　特別演奏会	モーツァルト／レクイエム	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.常森　寿子　A.志村　年子 T.金谷　良三　B.高橋　大海	文京公会堂
10・15	第18回定期演奏会	コダーイ／マトラの風景 リスト／ミサ・コラリス ビゼー／カルメン	中村　健	アンサンブル 東京芸術大学学生有志	共立講堂
'76・4・23	第19回定期演奏会	フォーレ／レクイエム シューベルト／ミサ六番	中村　健 エルヴィン・ボルン	管弦楽　新交響楽団 S.山本　恵子　A.浅井まり子 T.山路　芳久・牧川　修 B.桜井　直樹	文京公会堂
10・6	第20回定期演奏会 「オーケストラ伴奏による日本合唱曲の夕べ」	平井康三郎／不尽山を見て 団　伊久麿／岬の墓 湯山　昭／コタンの歌 高田　三郎／水のいのち	中村　健	管弦楽　新星日本交響楽団	共立講堂
11・26	東京歯科大学第九演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	河地　良智	管弦楽　東京歯科大学管弦楽団	日比谷公会堂
12・12	第九特別演奏会	ベートーヴェン／交響曲第九番	河地　良智	管弦楽　ユースフィルハーモニー管弦楽団	文京公会堂
'77・4・9	第21回定期演奏会 「創立10周年記念演奏会」	ヴェルディ／レイクエム	中村　健	管弦楽　新星日本交響楽団 S.中沢　桂　A.成田紀智子 T.五十嵐喜芳　B.田島　好一	
11・30	第22回定期演奏会 「創立10周年記念演奏会」	オルフ／カトゥーリ・カルミナ(抜粋) アフロディーテの勝利(抜粋) カルミナ・ブラーナ	芥川也寸志	管弦楽　新交響楽団 S.常森　寿子　T.丹羽　勝海 B.栗林　義信 児童合唱　練馬児童合唱団	日比谷公会堂



阿部 容子（ソプラノ）

鯨の皆様、10周年おめでとうございます。団員一人一人の情熱が一つとなって、いつもすばらしい演奏でした。それに、芥川先生の音楽に寄せる並々ならぬ愛情を感じました。今後を期待しています。

五十嵐 喜芳（テノール）

合唱団鯨はすてきなコーラス団です。私がこれまでに共演したコーラス団の中では特筆すべきコーラス団です。なぜなら、コーラスに必要な「和」があり、「生」があり、そしてアマチュアであるにもかかわらず、プロ並みのきびしい練習をし、そこに気迫があるからです。私がいつも思うことですが、音楽にはプロもアマもありません。一つの頂点に近づくための練習と気迫、これが大切だと思います。いつまでも、持ち続けて下さい。10周年記念演奏会おめでとうございます。

河地 良智（指揮者）

10周年おめでとうございます。演奏会というのは、どんなに優れた指揮者がいても、それだけではいい演奏はできません。それは、オーケストラ、合唱団、ソリストがいっしょになって初めてできることです。今回、芥川先生、新響と共演することは、鯨にとって、水を得た魚のように生き生きとした音楽が生まれることと思います。

栗林 義信（バリトン）

10周年おめでとうございます。カルミナ・ブラーナのバリトン・パートは、テクニック的にも音域的にも非常に難しい。だから、たいへん大きな喜びと不安があります。数多くのカルミナ・ブラーナに出演したけれど、なかでも70年に芥川先生の指揮で鯨と共演したステージのことが、なにかにつけ思い出されます。あれはよかったですね。今回またごいっしょできることをたいへんうれしく思います。

小林 研一郎（指揮者）

芥川氏の急病で、鯨と新響の第九を練習なしで振ったという思い出は強烈な印象で、今もあざやかに思い出されます。急な事態にもかかわらず、そのすばらしい燃えるような眼と心、技術は、鯨の底力を十分に発揮し、私を盛り上げてくれました。今後もまたいつか、いっしょにコンサートをもてることを心から願っています。

田島 好一（バリトン）

10年間という長い間には、各人の心に苦楽の思い出があることでしょう。今後とも技術を磨き、青年、中年へと長い歴史をもつ合唱団に育ってくれますことを楽しみにしています。

中沢 桂（ソプラノ）

10周年記念演奏会を盛大に迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。過日ヴェルディの「レクイエム」をごいっしょさせていただきました日の熱気を思い返して、今日もまた力いっぱいに演奏されている皆様に声援をお送りしたいと思います。私ども音楽のみに専念しているものでも10年、20年と歌い続けてゆくのはとても難しいことです。まして、各々他の仕事をもつアマチュアの方々が、それを保ってゆくことはたいへんな努力を要するものだと思います。これからも一つ一つの演奏会を大切にいつまでも歌い続け、年輪を重ねていって下さい。またごいっしょに歌えることを楽しみにしています。

成田 絵智子（アルト）

鯨とは、ヴェルディの「レクイエム」でごいっしょして、その熱意と底に秘められた測りしれないエネルギーに驚きました。また、本番にたいへん強い合唱団だと感じました。カルミナ・ブラーナのご成功をお祈りいたしております。

桜井 直樹（もと合唱団鯨ヴォイストレーナー）

今日(9/25)夕方、下宿のManma といっしょに近くの教会に行き、Coro del Duomo di Firenze （フィレンツェ第一の教会合唱団。約150人）のコンサートに行って来ました(無料)。……“声”に関して言えばおそらく鯨の方が良いように思われます。特に Ten. Alt は断然“鯨”の方が良い声ですが、150人のPPの響きは信じられないくらい美しい声でした。全体として、とてもよくまとまっている合唱団だと思いました。そしてそれと同時に合唱団“鯨”のレベルも決して見捨てたものでないと思いました。自信をもって歌って下さい。(過乗気味の方は控えて下さい！)

〈ローマからの手紙より。現在留学中〉

中村 均（合唱団鯨ピアニスト）

アマチュアの合唱団というのは運営面をはじめ、いろいろ難しい問題があって立ち消えになってしまうこともあるものですが、それがこのような規模でとにかく毎年演奏会を開き、今回10周年記念の演奏会を開けるということはやはり評価されて良いことだと思います。でもピアニストとして、いっしょに練習をしている立場から見ると、同じ注意を何度も受けたりして、一人一人の自覚が足りないと思うことがあります。鯨をよりよい合唱団にするためには、お互いがもっと真剣に練習にのぞんでほしいものですね。僕も一生懸命やるつもりです。**（文責 アルト・杉田惇恵）**

保障は愛のあかし

東京生命

本社：〒100 東京都千代田区内幸町1-5-2 ☎03-504-2211

社会のコミュニケーションに奉仕する

東都通信機販売株式会社

●留守番電話、ボタン電話、交換機、その他
電話設備一切の御用命をうけたまわります。
●マンション、貸事務所をお探しの方もぜひ
どうぞ。

東京都港区西新橋２－４－１　関野ビル３Ｆ　TEL 501－6858(佐野)

落ちついた宿で

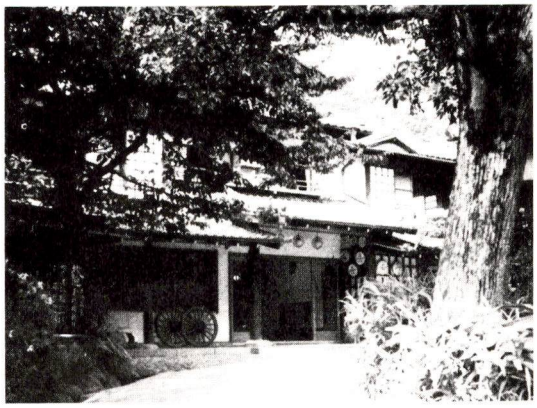
旅情を楽しみたいのなら！

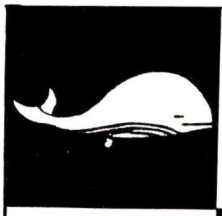
土肥温泉の玉樟園新井は、美しい庭園の中に離れが散在する閑静な純日本旅館です。海にも近く魚貝料理が自慢です。作家の花登 筐先生が細うで繁盛記を執筆された旅館です。

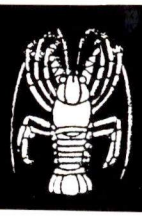
お申込は 寿観光株式会社

東京（03）920-2510

玉樟園新井

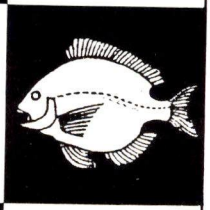
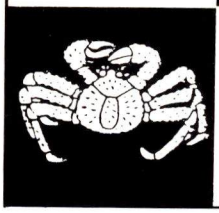


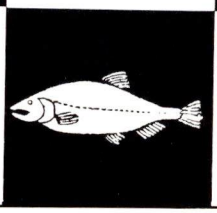








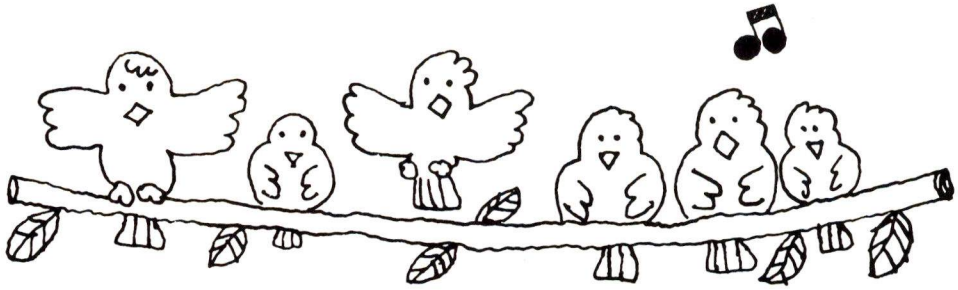




おいしい味みつけたときは
とてもうれしいものです。
あなたとお好きな曲との
出逢いのように
世界のおいしさをアレンジする
大洋漁業

いいものだ。仲間が多いということは。

会員数240万人、加盟店15万5千店
全国の皆様にお使いいただいています。



JCB CARDS

カードはやっぱり
JCB

東京都千代田区神田駿河台1-6
☎03-294-4611(代)　〒101

Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、
著作権法上、権利者に無断で使用できません。

アクティブなこれからのオーディオへ、音と機能の高度な調和を実現!

センター・コンソール・システム

人間工学にもとずき、操作性にすぐれたセンター・コンソールに、好評の2020シリーズを組み込み

新発売!



TYPE-1の組み合わせに
好適なスピーカー・システム●密閉
型3ウェイSX-55R型¥56,000●ユニバーサ
ル・スピーカー・スタンドLS-3000型¥30,000(2台一組)

コンポタイプ・ステレオ・カセットデッキ
KD-2020SA型……¥77,800
SAヘッドとスーパーANRS、5点ピーク・インジケーターの広Dレンジ設計

AM/FMステレオ・チューナー
T-2020型……¥59,000
先進技術の2ステージPLL、高度な受信性能と音質の長期維持を追求。

ステレオ・プリアンプ
P-2020型……¥54,500
マルチ・ソース対応、MCヘッドアンプ内蔵、高S/N低歪率全初段FET・ICL。

クォーツロックD・Dプレーヤ・システム(カートリッジレス)
QL-7R型……¥67,500
クォーツロックのD・Dターンテーブル TT-71型を搭載、透き通る音。

MM型カートリッジ
Z-1E型……¥10,000
高性能ボディ、振動系を一新した2CH専用機。

ステレオ・パワーアンプ
M-2020型……¥79,500
A・B独立電源とデュアルFET入力の高安定DCレベル監視機能付き。

センター・コンソール
LX-3000R型……¥45,000
人間工学にもとづくすぐれた操作性、システムの中枢機能を合理的に集約

組み合わせ総計……¥393,300
アンプ、チューナー、プレーヤ、カートリッジの組み合わせ合計 ¥270,500
センター・コンソール用ブランク・パネル BL-50型 ¥1,000
(TYPE-1はコンポーネントの組み合わせの一例です)

●システム・アップのための追加製品
SEAグラフィック・イコライザー
SEA-50(B)型……¥49,800
半導体インダクター回路によるディストーション・フリー設計、10素子±12dB可変
(ラックハンドル BH-150型 ¥4,800別売り)

Center Console System TYPE-1

私たちは音楽の心を大切にした音づくりをつづけています。

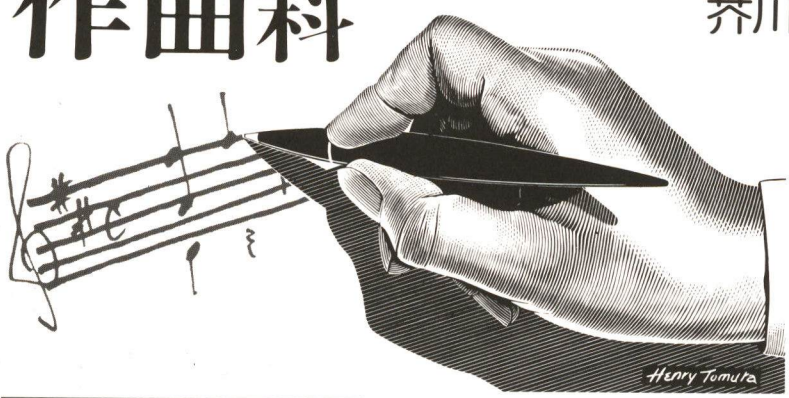
ビクターコンポーネント

ビクターローン
ローンシステム(銀行ローン、ニッパーLプラン)をご利用ください。

信頼を集める 東京音楽アカデミーの 通信教育

作曲科

芥川也寸志による新講座



芥川也寸志先生がピアノ、エレクトーン、ギター等ポピュラーな楽器を前にしながら作曲の実際を分りやすく教えてくれます。「リズムの話」「歌のメロディーを作る」「ハーモニーの種類」「作品のまとめ方」の順でレッスンを進めます。レコードを使った、実績を誇る音楽アカデミー方式のレッスンで誰でも一年で、自分で曲を作り、作品にまとめるまでの力がつけられます。

30cmＬＰレコードその他の教材は隔月に配布されます。

作曲科入会案内書は 東京音楽アカデミー作曲科宛にハガキ又は電話で請求して下さい。案内書は無料です。

ギター科

東京音楽アカデミー・入会案内



N・イエペス　L・ワルカー　J・ゴンザレス　小原安正

①本科の目的 ギターを習いたい人を広く募り、通信指導により、その演奏技術を教授し才能発掘の機を与え、優れた演奏家を養成します。

②教授組織 初歩から高等技術習得までのレッスンを12の基本ステップとポピュラー・プログラム6ステップにわけ、1つ1つのステップを確実に、しかも一定の速度をもって勉強できるように、第1ステップから順を追って定期的に会員に配布します。

③練習内容(第1～第12ステップの基本コース)

基本ステップは1～12まであり、全くの初歩から、総合的な演奏力の完成までを指導するものです。ギターの基礎をみっちり覚えて、だんだんと程度の高い曲へと、進んで行きます。

第5ステップからは、ポピュラーやフラメンコも練習し、総合的な力がつくように指導します。1つのステップの標準履修期間は**4週間**です。

「**基本12ステップ**」と併修あるいは選択できるものに「**ステージのためのポピュラー・プログラム**」と「**ワルカー教授高等レッスン**」があります。

④入会及び修了 基本コース第1ステップに申込んだ方を会員と認めます。尚、全ての会員に基本12ステップを履修していただきます。即ち、第1ステップ発送から1ヵ月後に第2ステップを、同様に順を追って1ヵ月毎に各新会員に送ります。基本第6ステップを終えた会員がポピュラー・プログラム第1ステップに移ることができます。

⑤教授 ナルシソ・イエペス、小原安正、ルイゼ・ワルカー、ヘスス・ゴンザレス、小原聖子、中林淳真、伊藤日出夫、D・モレノ

⑥授業料 授業料はステップ単位で、いずれのステップも3,500円です。入会金、送料その他の一時金は一切かかりません。授業料は教材が届いてから7日以内に払い込んで下さい。

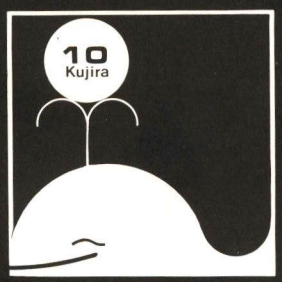
⑦申し込み方法 右のハガキのように住所、氏名を記入の上ポストに投函して下さい。折返し第1ステップをお送りします。

★東京都渋谷区鉢山町15―5（〒150）
★電話でも受付けます03(462)5711～3

20円 郵便はがき 150-□□
東京都渋谷区鉢山町15の5
東京音楽アカデミー

入会します
住所・郵便番号
氏名・年令

東京音楽アカデミー


10
Kujira